

授業科目名	担当教員名																													
水泳	和所 泰史																													
1単位																														
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独																												
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)																													
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技																													
<p>●授業の概要</p> <p>この講義では、以下の3点を柱として、水泳の指導スキルを身に付ける事を目標とする。①泳法を理解・修得し、修得に向けて効果的に段階的な指導ができるようになる。②水難事故の予防や回避の為に知識とスキルを身に付け、その指導ができるようになる。③水の特性を活かし、健康や競技のための活用法を紹介、指導できるようになる。泳法では基本の4泳法(ターンやけのびなども含む)と共に、救助法や水難事故の際にも役立つ泳ぎや指導の際に興味を惹く技などを学ぶ。水の物理的、生理的特性を学び、プールでの事故や怪我を防ぎ、水難事故を予防・回避できるようにする。また水の特性を活かして、健康や競技のための、コンディショニングやリラクゼーション、怪我予防などの水中運動についても学ぶと同時に指導法を身に付ける。</p>																														
<p>●授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クロール・平泳ぎ・背泳・バタフライの4泳法をマスターし、それぞれの動きの特性を理解するとともに、効率的な段階指導を知る。 2. 4泳法におけるつまづきやすい動きを理解し、その指導法を知る。それに伴う補助のスキルを身につける。 3. クロールおよび平泳ぎで50m以上泳げること。 4. 水の特性を物理的、生理的、医学的に理解する。 5. 水の特性を、コンディショニングやリラクゼーション、怪我予防、健康作りなどに活かす方法などを理解する。 																														
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">第1週</td> <td style="width: 50%;">ガイダンス。 水の物理的特性・生理的特性を学ぶ。 水泳に関するワードを知る。</td> <td style="width: 25%;">第8週</td> <td style="width: 20%;">水中運動(応用編:コンディショニング) 平泳ぎのストロークとコンビネーション</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>水中歩行(基本編) けのび、立ち方</td> <td>第9週</td> <td>背泳ぎのキック、ストローク、コンビネーション</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>クロールと背泳ぎのキック</td> <td>第10週</td> <td>タッチターン 平泳ぎ上級</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>水中運動(基本編) プールでの呼吸、回転</td> <td>第11週</td> <td>ドルフィンキック・バサロキック 背泳ぎ上級</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>スカーリング クロールのストロークとコンビネーション</td> <td>第12週</td> <td>バタフライのストロークとコンビネーション 水中運動(応用編:健康・リラクゼーション)</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>水中歩行(応用編:コンディショニング) クロール上級</td> <td>第13週</td> <td>エレメンタリーバックストローク</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>フリップターン 平泳ぎのキック</td> <td>第14週</td> <td>実技再チェック、知識のチェック(小テスト) まとめ</td> </tr> </table>			第1週	ガイダンス。 水の物理的特性・生理的特性を学ぶ。 水泳に関するワードを知る。	第8週	水中運動(応用編:コンディショニング) 平泳ぎのストロークとコンビネーション	第2週	水中歩行(基本編) けのび、立ち方	第9週	背泳ぎのキック、ストローク、コンビネーション	第3週	クロールと背泳ぎのキック	第10週	タッチターン 平泳ぎ上級	第4週	水中運動(基本編) プールでの呼吸、回転	第11週	ドルフィンキック・バサロキック 背泳ぎ上級	第5週	スカーリング クロールのストロークとコンビネーション	第12週	バタフライのストロークとコンビネーション 水中運動(応用編:健康・リラクゼーション)	第6週	水中歩行(応用編:コンディショニング) クロール上級	第13週	エレメンタリーバックストローク	第7週	フリップターン 平泳ぎのキック	第14週	実技再チェック、知識のチェック(小テスト) まとめ
第1週	ガイダンス。 水の物理的特性・生理的特性を学ぶ。 水泳に関するワードを知る。	第8週	水中運動(応用編:コンディショニング) 平泳ぎのストロークとコンビネーション																											
第2週	水中歩行(基本編) けのび、立ち方	第9週	背泳ぎのキック、ストローク、コンビネーション																											
第3週	クロールと背泳ぎのキック	第10週	タッチターン 平泳ぎ上級																											
第4週	水中運動(基本編) プールでの呼吸、回転	第11週	ドルフィンキック・バサロキック 背泳ぎ上級																											
第5週	スカーリング クロールのストロークとコンビネーション	第12週	バタフライのストロークとコンビネーション 水中運動(応用編:健康・リラクゼーション)																											
第6週	水中歩行(応用編:コンディショニング) クロール上級	第13週	エレメンタリーバックストローク																											
第7週	フリップターン 平泳ぎのキック	第14週	実技再チェック、知識のチェック(小テスト) まとめ																											
<p>●提出課題等</p> <p>担当内容の指導案の提出を課す。</p>																														
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>到達目標への到達度から総合的に評価する。</p>																														
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 水泳指導の手引き(担当教員作成のものをHPよりダウンロード)</p>																														
<p>参考書・参考資料等 「学校体育実技指導資料第4集 水泳指導の手引き(三訂版)」文部科学省 「水泳コーチ教本」(日本水泳連盟編、大修館書店) 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(文部科学省、東山書房) 「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」(文部科学省、東山書房)</p>																														
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																														

授業科目名	担当教員名																													
武道(柔道)	中西 英敏																													
1単位																														
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独																												
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)																													
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技																													
<p>●授業の概要</p> <p>柔道は、稽古の積み重ねを通して、瞬発力、持久力、調整力などを養うことができ、さらに相手と格闘し合う対応の中で旺盛な気力、礼儀、克己、公正、遵法などの態度を養うことが期待できる。柔道は、嘉納治五郎が、我が国の伝統的な武技の一つであった柔術を新しい原理のもとに集大成して創始したものであり、その目的とするところは、相手との稽古等を通じて身体や精神を鍛錬修養し、それによって自己を完成し、社会に役立つ人間を育成するところにある。この考え方は、柔道の教育的な意義を強調すると共に、心身の発育・発達への効果面を重視している。ここでは、こうした柔道の心身の発育・発達への効果を重視した授業を行う。技術内容としては、立ち技・寝技・崩し・受け身などであり、授業において、技術レベルに応じた練習及びその指導法について身に付ける。また、試合の行い方、審判法、競技会の運営の方法についても身に付ける。</p>																														
<p>●授業の到達目標(学修する学生の到達目標をできるだけ明確・詳細に記入)</p> <p>柔道の基本動作・対人的技能を習得し、柔道の指導に生かすことが出来る能力を養うことが本授業の目標である。その目標に向けての具体的な到達目標は以下の通りである。(以下の到達目標はA評価に相当するものを示す。)</p> <p>1. 柔道の技術について 1)姿勢と組み方、身体動作、体捌き、単独で行う受身などの基本動作が出来る。 2)投げ技では、投げられた時にしっかりと受身が出来る、相手を崩して技を掛けることが出来る、対人的技能を行うことが出来る。 3)固め技では、正しい抑え技の形を習得し、絞技と関節技をも含めた固め技の理合いを理解し、簡単な攻防が出来る。 4)基本的な試合・審判規定を理解することが出来る。</p> <p>2. 指導法について 1)基本動作、対人的技能の指導計画を立てることが出来る。 2)基本動作の指導が出来る。</p>																														
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1"> <tr> <td>第1週</td> <td>ガイダンス、授業概要(学習の到達目標)、授業の進め方、怪我防止について、柔道の導入(柔道の歴史・特性についてVTR上映等)</td> <td>第8週</td> <td>対人的技能(投げ技・担ぎ技・大腰、体落、背負投)</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>柔道の基礎知識(日本の伝統文化・世界のスポーツとしての柔道) 柔道衣について(道衣の各部位の名称と道衣の着方と道衣の特性) 基本動作(礼法:座礼、立礼⇒正座の仕方・立ち方)</td> <td>第9週</td> <td>対人的技能(投げ技:足技・膝車、支え釣込み足、大外刈り)・投げ技の約束練習</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>基本動作(姿勢・進退動作・体捌き・組み方) 基本動作(受け身:後ろ受け身)、相手を崩して投げる理論</td> <td>第10週</td> <td>対人的技能(投げ技:足技・小内刈、大内刈)・投げ技の連絡技</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>基本動作(受け身:後ろ受け身、横受け身)、体さばき、崩し</td> <td>第11週</td> <td>対人的技能(投げ技:足技・小内刈、大内刈)・投げ技の連絡技 対人的技能(固め技:袈裟固、横四方固、崩れ上四方固)・固め技の約束練習</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>基本動作(受け身:後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身) 対人的技能(投げ技:大腰)・体さばき(後ろ回りさばき)</td> <td>第12週</td> <td>対人的技能(固め技:絞め技、関節技、投げ技:大内刈り、小内刈り)・約束練習</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>対人的技能(投げ技:大腰、体落、背負投)・体さばき(後ろ回りさばき)</td> <td>第13週</td> <td>対人的技能(技の連絡変化:投げ技から投げ技)・約束練習 対人的技能(審判規定と試合の方法:約束試合)、柔道指導法について</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>対人的技能(投げ技:大腰、体落、背負投 足技:大内刈り、小内刈りの基礎)・体さばき(後ろ回りさばき)</td> <td>第14週</td> <td>実技試験及びまとめ</td> </tr> </table>			第1週	ガイダンス、授業概要(学習の到達目標)、授業の進め方、怪我防止について、柔道の導入(柔道の歴史・特性についてVTR上映等)	第8週	対人的技能(投げ技・担ぎ技・大腰、体落、背負投)	第2週	柔道の基礎知識(日本の伝統文化・世界のスポーツとしての柔道) 柔道衣について(道衣の各部位の名称と道衣の着方と道衣の特性) 基本動作(礼法:座礼、立礼⇒正座の仕方・立ち方)	第9週	対人的技能(投げ技:足技・膝車、支え釣込み足、大外刈り)・投げ技の約束練習	第3週	基本動作(姿勢・進退動作・体捌き・組み方) 基本動作(受け身:後ろ受け身)、相手を崩して投げる理論	第10週	対人的技能(投げ技:足技・小内刈、大内刈)・投げ技の連絡技	第4週	基本動作(受け身:後ろ受け身、横受け身)、体さばき、崩し	第11週	対人的技能(投げ技:足技・小内刈、大内刈)・投げ技の連絡技 対人的技能(固め技:袈裟固、横四方固、崩れ上四方固)・固め技の約束練習	第5週	基本動作(受け身:後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身) 対人的技能(投げ技:大腰)・体さばき(後ろ回りさばき)	第12週	対人的技能(固め技:絞め技、関節技、投げ技:大内刈り、小内刈り)・約束練習	第6週	対人的技能(投げ技:大腰、体落、背負投)・体さばき(後ろ回りさばき)	第13週	対人的技能(技の連絡変化:投げ技から投げ技)・約束練習 対人的技能(審判規定と試合の方法:約束試合)、柔道指導法について	第7週	対人的技能(投げ技:大腰、体落、背負投 足技:大内刈り、小内刈りの基礎)・体さばき(後ろ回りさばき)	第14週	実技試験及びまとめ
第1週	ガイダンス、授業概要(学習の到達目標)、授業の進め方、怪我防止について、柔道の導入(柔道の歴史・特性についてVTR上映等)	第8週	対人的技能(投げ技・担ぎ技・大腰、体落、背負投)																											
第2週	柔道の基礎知識(日本の伝統文化・世界のスポーツとしての柔道) 柔道衣について(道衣の各部位の名称と道衣の着方と道衣の特性) 基本動作(礼法:座礼、立礼⇒正座の仕方・立ち方)	第9週	対人的技能(投げ技:足技・膝車、支え釣込み足、大外刈り)・投げ技の約束練習																											
第3週	基本動作(姿勢・進退動作・体捌き・組み方) 基本動作(受け身:後ろ受け身)、相手を崩して投げる理論	第10週	対人的技能(投げ技:足技・小内刈、大内刈)・投げ技の連絡技																											
第4週	基本動作(受け身:後ろ受け身、横受け身)、体さばき、崩し	第11週	対人的技能(投げ技:足技・小内刈、大内刈)・投げ技の連絡技 対人的技能(固め技:袈裟固、横四方固、崩れ上四方固)・固め技の約束練習																											
第5週	基本動作(受け身:後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身) 対人的技能(投げ技:大腰)・体さばき(後ろ回りさばき)	第12週	対人的技能(固め技:絞め技、関節技、投げ技:大内刈り、小内刈り)・約束練習																											
第6週	対人的技能(投げ技:大腰、体落、背負投)・体さばき(後ろ回りさばき)	第13週	対人的技能(技の連絡変化:投げ技から投げ技)・約束練習 対人的技能(審判規定と試合の方法:約束試合)、柔道指導法について																											
第7週	対人的技能(投げ技:大腰、体落、背負投 足技:大内刈り、小内刈りの基礎)・体さばき(後ろ回りさばき)	第14週	実技試験及びまとめ																											
<p>●提出課題等</p> <p>各自授業ノート(配布資料等を張り付ける関係上A3判のノートがのぞましい)を作成し、授業終了後に提出してもらう。</p>																														
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>「学習到達目標」の達成レベルを評価Aとし、1. 実技試験(40点)、2. ノート整理・まとめ、レポート(30点)、3. 授業への取り組み(30点)とし、総合的に評価する。</p>																														
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト なし</p> <p>参考書・参考資料等 参考書 ・DVDでわかる 柔道入門 中西英敏著(西東社) ・少年柔道 基本げいこ 中西英敏著(大泉書店) ・その他 随時参考資料を配布</p>																														
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																														

授業科目名		担当教員名																													
体づくり運動		高橋 和子																													
1単位																															
教員の免許状取得のための「必修科目」		担当形態	単独																												
科目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)																													
施行規則に定める科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・体育実技																													
<p>●授業の概要</p> <p>体づくり運動は、「体ほぐしの運動」「体の動きを高める運動」「実生活に生かす運動の計画」から構成されている。体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と自主的に関わり合うことを学習する。体の動きを高める運動では、体の柔らかさ、巧みさ、力強さ、動きを持続する能力を高める運動を行うと共に、それらを組み合わせる運動を学習する。実生活に生かす運動の計画では、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立てることを学習する。併せてそれらの指導法を身に付ける。</p>																															
<p>●授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の文化的背景、教育的・心理的効果を理解している。 ・「体ほぐしの運動」「体の動きを高める運動」「実生活に生かす運動の計画」の特性を理解している。 ・体づくりに応じた指導方法を身に付けている。 ・体づくりに取り扱うICT機器(音響・映像等)を効果的に活用することができる。 																															
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">第1週</td> <td style="width: 50%;">オリエンテーション(単元の全容を知る) エアロビクダンス</td> <td style="width: 25%;">第8週</td> <td style="width: 20%;">体ほぐしの運動④ 仲間と共に動く</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>ボディ・ワークを知る① ヨガ、ピラティス、アレキサンダー・テクニーク</td> <td>第9週</td> <td>体の動きを高める運動① 体の柔らかさを高める</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>ボディ・ワークを知る② フェルデン・クライス・メソッド、Body-Mind Centering、ストレッチ</td> <td>第10週</td> <td>体の動きを高める運動② 体の巧みさを高める</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>ボディ・ワークを知る③ 操体法、野口体操、呼吸法</td> <td>第11週</td> <td>体の動きを高める運動③ 動きを持続する能力を高める(エアロビクダンス)</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>体ほぐしの運動① 身体の状態に気づく</td> <td>第12週</td> <td>実生活に生かす運動の計画① 模擬指導(ボディ・ワークから選択)</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>体ほぐしの運動② 心の状態に気づく</td> <td>第13週</td> <td>実生活に生かす運動の計画② 模擬指導(体ほぐしの運動から選択)</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>体ほぐしの運動③ 仲間と関わる</td> <td>第14週</td> <td>実生活に生かす運動の計画③ 模擬授業 (体の動きを高める:エアロビクダンス) まとめ</td> </tr> </table>				第1週	オリエンテーション(単元の全容を知る) エアロビクダンス	第8週	体ほぐしの運動④ 仲間と共に動く	第2週	ボディ・ワークを知る① ヨガ、ピラティス、アレキサンダー・テクニーク	第9週	体の動きを高める運動① 体の柔らかさを高める	第3週	ボディ・ワークを知る② フェルデン・クライス・メソッド、Body-Mind Centering、ストレッチ	第10週	体の動きを高める運動② 体の巧みさを高める	第4週	ボディ・ワークを知る③ 操体法、野口体操、呼吸法	第11週	体の動きを高める運動③ 動きを持続する能力を高める(エアロビクダンス)	第5週	体ほぐしの運動① 身体の状態に気づく	第12週	実生活に生かす運動の計画① 模擬指導(ボディ・ワークから選択)	第6週	体ほぐしの運動② 心の状態に気づく	第13週	実生活に生かす運動の計画② 模擬指導(体ほぐしの運動から選択)	第7週	体ほぐしの運動③ 仲間と関わる	第14週	実生活に生かす運動の計画③ 模擬授業 (体の動きを高める:エアロビクダンス) まとめ
第1週	オリエンテーション(単元の全容を知る) エアロビクダンス	第8週	体ほぐしの運動④ 仲間と共に動く																												
第2週	ボディ・ワークを知る① ヨガ、ピラティス、アレキサンダー・テクニーク	第9週	体の動きを高める運動① 体の柔らかさを高める																												
第3週	ボディ・ワークを知る② フェルデン・クライス・メソッド、Body-Mind Centering、ストレッチ	第10週	体の動きを高める運動② 体の巧みさを高める																												
第4週	ボディ・ワークを知る③ 操体法、野口体操、呼吸法	第11週	体の動きを高める運動③ 動きを持続する能力を高める(エアロビクダンス)																												
第5週	体ほぐしの運動① 身体の状態に気づく	第12週	実生活に生かす運動の計画① 模擬指導(ボディ・ワークから選択)																												
第6週	体ほぐしの運動② 心の状態に気づく	第13週	実生活に生かす運動の計画② 模擬指導(体ほぐしの運動から選択)																												
第7週	体ほぐしの運動③ 仲間と関わる	第14週	実生活に生かす運動の計画③ 模擬授業 (体の動きを高める:エアロビクダンス) まとめ																												
<p>●提出課題等</p> <p>1) 授業のまとめを毎時間行い、提出する。 2) 最終レポートとして、体づくり運動に関する資料を提出する。提出は、k-takahashi @ssu.ac.jpに添付。</p>																															
<p>●成績の評価方法・基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回提出される課題のポートフォリオ50% ・模擬授業20% ・最終レポート(体づくり運動の指導案作成)30% 																															
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト ・文部省(2000)体づくり運動:授業の考え方と進め方.東洋館出版社</p>																															
<p>参考書・ ・高橋和子編者(1995)表現:風のとまごが転がったとき.不昧堂出版 参考資料等</p>																															
<p>●履修条件</p> <p>1) 全出席が単位認定の条件。 2) 欠席・遅刻は原則、認めない。</p>																															

授業科目名	担当教員名	
陸上競技	熊野 陽人	
1単位		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技	
<p>●授業の概要</p> <p>陸上競技は、走・跳・投運動の種目から成り、これらの運動で必要となる技能は他のスポーツを堪能するためにも欠かせない。またこれらの運動を通して身に付ける動作や技能は生活上にも大きな役割を果たしている。本授業では、これら種目の中の代表的な短距離走、走り幅跳び、走り高跳び、砲丸投げ、あるいはハードル走などの練習方法や競技方法・用具の扱いや管理、安全な運動実践の方法などを学び、かつこれらの指導方法を身に付ける。</p>		
<p>●授業の到達目標</p> <p>①陸上競技(走・跳・投)の基本的技能を習得し、それぞれの運動の仕組みを理解できる。 ②陸上競技の特性、指導目的および評価法を理解できる。 ③基礎的な理論および技能を活かし、他者に陸上競技の指導を行える。</p>		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>		
第1週 陸上競技の特性およびルール ¹⁾ の解説と評価法について説明	第8週	跳躍種目(1)走り高跳び
第2週 短距離種目(1)100m・200m・400m	第9週	跳躍種目(2)走り幅跳び・三段跳び
第3週 短距離種目(2)ハードル走・ハードリング動作	第10週	投擲種目(1)砲丸投げ・円盤投げ
第4週 短距離種目(3)ハードル走・タイムトライアル	第11週	投擲種目(2)やり投げ
第5週 短距離種目(4)4×100mR	第12週	混成競技(走・跳・投の混成競技トライアル)
第6週 中距離種目(アナロピクス運動とエアロピクス運動)	第13週	陸上競技の指導法(観察による運動評価)
第7週 長距離種目(心拍数で運動強度をコントロールする)	第14週	課題提出と解説、実技チェックと解説
<p>●提出課題等</p> <p>1回のみ課題レポートの提出を求める。なお、課題レポートの評価は、①指示した形式と提出期限を守っているかどうか、②参考文献等を活用し、客観的な事実と自分の考えを具体的に書いているかどうかを基準に評価する。</p>		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>各種目の基本的技能の習得状況、課題レポートの結果に基づき、成績評価を行う。</p>		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト なし</p>		
参考書・	陸上競技指導教本(基礎理論編)、日本陸上競技連盟編、大修館書店	
参考資料等	陸上競技指導教本(種目別実技編)、日本陸上競技連盟編、大修館書店	
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>		

授業科目名	担当教員名																													
ダンス	高橋 和子																													
1単位																														
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独																												
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)																													
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技																													
<p>●授業の概要</p> <p>身体表現のもっとも代表的なダンスは、古来から近現代においても、生活や文化に欠かせないものになっている。それらの背景を踏まえ、他者やものと身体でかかわる視点や、コミュニケーションツール(自己表現)の観点から、ダンスを考察する。具体的には、ダンスの素材である身体、リズムや動きの探求などを通じ、ダンスの基礎的技能を学習する。その後、創作ダンスを舞台上演するための創作技能、上演技能、作品創作や舞台上演の知識を学ぶと共に、各役割に対して責任を持ち舞台上立つことを目指す。また、能力レベルに応じた指導の方法を身に付ける。</p>																														
<p>●授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの歴史的・文化的背景、教育的・心理的効果を理解している。 ・表現系ダンス・リズム系ダンス・フォークダンス系ダンスの特性を理解している。 ・各ダンス領域に応じた指導方法を身に付けている。 ・ダンスで取り扱うICT機器(音響・映像等)を効果的に活用することができる。 																														
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション(単元の全容を知る) ダンスの種類(表現系・リズム系・フォークダンス系)</td> <td>第8週</td> <td>創作ダンス② 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) 対極の動きの連続から</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>ダンスウォームアップ</td> <td>第9週</td> <td>創作ダンス③ 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) 多様な感じの動きから</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>フォークダンス系① 外国のフォークダンス</td> <td>第10週</td> <td>創作ダンス④ 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) 群の動きを構成して</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>フォークダンス系② 日本の民謡</td> <td>第11週</td> <td>創作ダンス⑤ 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) ものを使った動きから</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>現代的なリズムのダンス① ロック</td> <td>第12週</td> <td>創作ダンス⑥ 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) はこびとストーリー</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>現代的なリズムのダンス② ヒップホップ</td> <td>第13週</td> <td>舞台上演法 音楽・衣装・照明・ICT(撮影・編集等)</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>創作ダンス① 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) 身近な生活や日常動作から</td> <td>第14週</td> <td>自主課題 作品発表(グループ・個人)</td> </tr> </tbody> </table>			第1週	オリエンテーション(単元の全容を知る) ダンスの種類(表現系・リズム系・フォークダンス系)	第8週	創作ダンス② 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) 対極の動きの連続から	第2週	ダンスウォームアップ	第9週	創作ダンス③ 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) 多様な感じの動きから	第3週	フォークダンス系① 外国のフォークダンス	第10週	創作ダンス④ 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) 群の動きを構成して	第4週	フォークダンス系② 日本の民謡	第11週	創作ダンス⑤ 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) ものを使った動きから	第5週	現代的なリズムのダンス① ロック	第12週	創作ダンス⑥ 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) はこびとストーリー	第6週	現代的なリズムのダンス② ヒップホップ	第13週	舞台上演法 音楽・衣装・照明・ICT(撮影・編集等)	第7週	創作ダンス① 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) 身近な生活や日常動作から	第14週	自主課題 作品発表(グループ・個人)
第1週	オリエンテーション(単元の全容を知る) ダンスの種類(表現系・リズム系・フォークダンス系)	第8週	創作ダンス② 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) 対極の動きの連続から																											
第2週	ダンスウォームアップ	第9週	創作ダンス③ 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) 多様な感じの動きから																											
第3週	フォークダンス系① 外国のフォークダンス	第10週	創作ダンス④ 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) 群の動きを構成して																											
第4週	フォークダンス系② 日本の民謡	第11週	創作ダンス⑤ 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) ものを使った動きから																											
第5週	現代的なリズムのダンス① ロック	第12週	創作ダンス⑥ 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) はこびとストーリー																											
第6週	現代的なリズムのダンス② ヒップホップ	第13週	舞台上演法 音楽・衣装・照明・ICT(撮影・編集等)																											
第7週	創作ダンス① 課題に対応するダンスウォームアップ(学生による模擬授業) 身近な生活や日常動作から	第14週	自主課題 作品発表(グループ・個人)																											
<p>●提出課題等</p> <p>1) 授業のまとめを毎時間行い、提出する。 2) 最終レポートとして、グループ作品発表、並びに個人作品発表に関する資料を提出する。提出は、k-takahashi @ssu.ac.jpに添付。</p>																														
<p>●成績の評価方法・基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回提出される課題のポートフォリオ40% ・模擬授業10% ・作品発表30% ・最終レポート20% 																														
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト ・文部科学省(2013)表現運動系およびダンス指導の手引き 東洋館出版社 ・高橋和子公式webサイト http://kazuko-ynujpに掲載された「文部科学省・スポーツ庁委託事業報告書 平成26・27・28・29年度」</p> <p>参考書・ ・高橋和子・静岡産業大学 小澤治夫・小林寛道監修(2018)スポーツの科学と教育「ダンスの科学」ベースボールマガジン社 参考資料等</p>																														
<p>●履修条件</p> <p>1) 全出席が単位認定の条件。 2) 欠席・遅刻は原則、認めない。</p>																														

授業科目名		担当教員名																													
器械運動		宮崎 彰吾																													
1単位																															
教員の免許状取得のための「必修科目」		担当形態	単独																												
科目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)																													
施行規則に定める科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・体育実技																													
<p>●授業の概要</p> <p>本授業では、マット、跳び箱、鉄棒などの器械や用具を使用して、それぞれの特徴を生かした基本的な技術や、練習方法及び理論について学ぶ。その際に、学習者自身が自己の身体の動かし方に意識を持ち、創意工夫しながら、「できない」ことを「できる」ようにすることが重要である。また、個人の技能レベルに応じた技術習得だけでなく、実践を通じて運動を多角的に理解し、他者の運動に対しても適切なアドバイスや補助ができるようになることを目指し、かつ指導の方法を身に付ける。</p>																															
<p>●授業の到達目標</p> <p>器械運動の歴史や特性の理解、基本技の習得およびその指導法について学ぶことが本授業の目標である。 具体的目標は以下の通りである。 ①器械運動の歴史・特性を理解し、できる楽しさ・達成の楽しさについて理解している。 ②基本的な技を実施できること、その習得の際に仲間と協力し工夫することができる。 ③段階的指導(練習)の計画を立てることができ、効果的な補助法(補助法)について理解している。</p>																															
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第 1週</td> <td style="width: 50%;">・授業概要の説明と注意事項 ・器械運動の歴史と特性</td> <td style="width: 50%;">第 8週</td> <td style="width: 50%;">・鉄棒運動①(支持回転系後方回転群)</td> </tr> <tr> <td>第 2週</td> <td>・器械運動的準備運動および基礎トレーニング</td> <td>第 9週</td> <td>・鉄棒運動②(支持回転系前方回転群)</td> </tr> <tr> <td>第 3週</td> <td>・器械運動的感覚トレーニング</td> <td>第10週</td> <td>・鉄棒運動③(まとめ、習熟度確認テスト)</td> </tr> <tr> <td>第 4週</td> <td>・マット運動①(巧技系と回転系の基礎)</td> <td>第11週</td> <td>・跳び箱運動①(切り返し系の技)</td> </tr> <tr> <td>第 5週</td> <td>・マット運動②(回転系接続群の基礎)</td> <td>第12週</td> <td>・跳び箱運動②(回転系の技)</td> </tr> <tr> <td>第 6週</td> <td>・マット運動③(回転系ほん転群の基礎)</td> <td>第13週</td> <td>・跳び箱運動③(まとめ、習熟度確認テスト)</td> </tr> <tr> <td>第 7週</td> <td>・マット運動④(まとめ、習熟度確認テスト)</td> <td>第14週</td> <td>・実技試験(演技発表会) ・器械運動の評価法</td> </tr> </table>				第 1週	・授業概要の説明と注意事項 ・器械運動の歴史と特性	第 8週	・鉄棒運動①(支持回転系後方回転群)	第 2週	・器械運動的準備運動および基礎トレーニング	第 9週	・鉄棒運動②(支持回転系前方回転群)	第 3週	・器械運動的感覚トレーニング	第10週	・鉄棒運動③(まとめ、習熟度確認テスト)	第 4週	・マット運動①(巧技系と回転系の基礎)	第11週	・跳び箱運動①(切り返し系の技)	第 5週	・マット運動②(回転系接続群の基礎)	第12週	・跳び箱運動②(回転系の技)	第 6週	・マット運動③(回転系ほん転群の基礎)	第13週	・跳び箱運動③(まとめ、習熟度確認テスト)	第 7週	・マット運動④(まとめ、習熟度確認テスト)	第14週	・実技試験(演技発表会) ・器械運動の評価法
第 1週	・授業概要の説明と注意事項 ・器械運動の歴史と特性	第 8週	・鉄棒運動①(支持回転系後方回転群)																												
第 2週	・器械運動的準備運動および基礎トレーニング	第 9週	・鉄棒運動②(支持回転系前方回転群)																												
第 3週	・器械運動的感覚トレーニング	第10週	・鉄棒運動③(まとめ、習熟度確認テスト)																												
第 4週	・マット運動①(巧技系と回転系の基礎)	第11週	・跳び箱運動①(切り返し系の技)																												
第 5週	・マット運動②(回転系接続群の基礎)	第12週	・跳び箱運動②(回転系の技)																												
第 6週	・マット運動③(回転系ほん転群の基礎)	第13週	・跳び箱運動③(まとめ、習熟度確認テスト)																												
第 7週	・マット運動④(まとめ、習熟度確認テスト)	第14週	・実技試験(演技発表会) ・器械運動の評価法																												
<p>●提出課題等</p> <p>・器械運動の指導法(練習法)に関するレポートを課す。</p>																															
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>・実技試験、レポートの結果や課題への取り組み状況に基づき、成績評価を行う。</p>																															
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト なし</p>																															
<p>参考書・「中・高校 器械運動の授業づくり」三木四郎、本村清人、加藤澤雄(大修館書店) 参考資料等 「器械運動の授業づくり」高橋健夫、長野淳次朗、三木四郎(大修館書店)</p>																															
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																															

授業科目名	担当教員名	
球技(サッカー)	中西 健一郎	
1単位		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技	
<p>●授業の概要</p> <p>サッカーは多くのスポーツ種目の中で最も愛好する人口の多い球技であり、学校を始めとして地域社会でも多くの人々が実践している。本授業では、ボールを止める(トラップ)・動かす(ドリブル)・蹴る(キック)などの基礎的技術を習得すると同時にその効果的な練習法を学ぶ。また個人戦術・グループ戦術を学び、さらに守備と攻撃の方法についてもタスクゲーム(ミニゲームなど)を通じて理解し学習する。またこれらの指導法を身に付ける。</p>		
<p>●授業の到達目標</p> <p>サッカーの「技術」「戦術」「体力」における基本的な知識を習得・活用して、実際の指導場面で有効なコーチングを実践するためのスキル獲得を目標とする。</p>		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>		
第1週	ガイダンス 授業概要に関する説明・サッカーの基本的な指導知識の学習する。	第8週 指導実践4 テーマ:フィニッシュ
第2週	サッカーコーチング サッカーのコーチングに関する基礎的な知識について学習する。	第9週 指導実践5 テーマ:クロス(攻撃)
第3週	コーチングの実際 実際のサッカー指導に関して実践的に学習する。	第10週 指導実践6 テーマ:クロス(守備)
第4週	トレーニング計画の立案 トレーニング計画の作成法について学習する。	第11週 指導実践7 テーマ:セットプレー(攻撃)
第5週	指導実践1 テーマ:突破(攻撃)	第12週 指導実践8 テーマ:セットプレー(守備)
第6週	指導実践2 テーマ:1対1の守備	第13週 指導実践9 テーマ:GKへのコーチング
第7週	指導実践3 テーマ:ボールポゼッション	第14週 試験
		第15週 試験の振り返り、解説、総括等
<p>●提出課題等</p> <p>なし。</p>		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>試験及びレポートの結果に基づき、成績評価を行う。</p>		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト なし</p>		
参考書・参考資料等	特に指定しないが、授業内において配布した資料を参考として学習を進める。	
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>		

授業科目名	担当教員名	
球技(テニス)	徐 広孝	
1単位		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技	
<p>●授業の概要</p> <p>テニスはネット型の球技としての典型教材であり、子どもから高齢者までがその発達段階や体力・運動能力に合わせて行うことのできるスポーツである。本科目では、テニスの歴史やルールを学んだうえで、ストローク、ボレー、サーブの技術の習得を軸とし、発展的なプレー(パッシングショット、ネットプレー、サービスアンドボレーなど)の習得も試みる。また、練習の方法、シングルスやダブルスなどのゲームの行い方などを学習すると同時に、それらの指導法を身に付ける。</p>		
<p>●授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テニスのルール(シングルス・ダブルスにおけるサービスサイドとレシーバー、スコアリングシステム、イン・アウト・フォルト・レットの判定など)を理解する。 ・基本的な技能を習得する(グラウンドストロークでラリーを20回継続、ボレーでラリーを10回継続、サービスが70%の確率で入る)。 ・試合において発展的なプレー(パッシングショット、ネットプレー、サービスアンドボレーなど)を成功させることができる。 ・基本的な球出しができるようになる。 ・審判法、大会運営のやり方を身につける。 		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>		
第1週	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の概要説明 ・テニスの歴史と競技特性 ・まずはボールを打ってみる 	第8週 <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な練習②(ネットプレー、パッシングショット) ・練習試合②
第2週	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドストローク①(手投げの球出し) 	第9週 <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な練習③(サービス&ボレー) ・練習試合③
第3週	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドストローク②(ラケットでの球出し) ・ラケットとボールの反発を物理的に考える 	第10週 <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な練習④(オープンコートを作る) ・練習試合④
第4週	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス①(スピンのかけ方) ・半面でのゲーム形式 	第11週 <ul style="list-style-type: none"> ・指導方法の習得(手投げの球出し、ラケットでの球出し) ・実技テスト②
第5週	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス②(コースを打ち分ける) ・サービスリターン ・半面でのゲーム形式 	第12週 <ul style="list-style-type: none"> ・指導方法の習得②(見本の見せ方、テニスのフィジカルトレーニング)
第6週	<ul style="list-style-type: none"> ・ボレー(球出し) ・ボレーを使ったダブルスのゲーム展開 ・実技テスト① 	第13週 <ul style="list-style-type: none"> ・大会運営法①(ドロウの組み方)
第7週	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な練習①(リカバリーからのラリー展開) ・試合のルール解説 ・練習試合① 	第14週 <ul style="list-style-type: none"> ・大会運営法②(大会運営の実際)
<p>●提出課題等</p> <p>なし。</p>		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>実技テスト、筆記テスト、授業への取り組み状況に基づき、成績評価を行う。</p>		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト なし。</p>		
参考書・ 参考資料 等	指導者のためのテニスの科学と応用 澁谷隆良著(ブックハウスHD)	
<p>●履修条件</p> <p>なし。</p>		

授業科目名	担当教員名	
体育原理	和所 泰史	
2単位		
教員の免許状取得のための「選択科目」(中学校) 「必修科目」(高等学校)	担当形態	単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)	
●授業の概要 本授業では、体育・スポーツ科学系学部の専門である体育を正しく理解するために、体育それ自体を改めて自覚的に掘り下げ、その本質や基盤、そして教育としての可能性等、あるいはそれに関連する諸知識について理解を深めると共に、体育・スポーツ科学の専門家あるいは体育・スポーツ関連職志望学生としての基本的な考え方を養成する。		
●授業の到達目標 スポーツを学ぶ学生たちの専門である体育を正しく理解するために、体育それ自体を改めて自覚的に掘り下げ、その本質や基盤、そして教育としての可能性等、あるいはそれに関連する諸知識について知り、体育の専門家あるいは体育・スポーツ関連職志望学生としての基本的な考え方を養成する。認知的領域については、体育のありかたを、自分の力で考えることができることを目標とする。情意的領域については、よい体育を追求しようとする意識をもつことができることを目標とする。技能的領域については、体育について論理的に思考することができることを目標とする。		
●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。		
第1週 講義「体育原理」についてのオリエンテーション	第8週	体育教師の哲学的基盤:体育哲学と体育の原理
第2週 体育への問い:教わる立場から教える立場へ	第9週	体育の対象としての人間:体育学的人間理解
第3週 体育とは何か①:前提としての歴史認識—未来の体育教師へ	第10週	体育教材としての身体運動文化:スポーツとその文化運動
第4週 体育とは何か②:体育の名辞とその概念	第11週	体育の目的論
第5週 体育と体育教師:体育教師の負の遺産とそこからの脱却	第12週	体育の存在意義
第6週 専門職としての体育教師:体育教師の代替不能な職能	第13週	体育と人文主義
第7週 体育教師の学問的基盤:専門科学としての体育学	第14週	講義のまとめ
	第15週	定期試験
●提出課題等 講義の状況に応じて課題を出すことがあります。		
●成績の評価方法・基準 基本的には、試験(70%)、平常点(30%)とします。平常点とは、教科書の音読協力、授業中の発問等に対する解答提示、あるいはその他の積極的な受講態度等を評価します。		
●テキストまたは参考書・参考資料等 テキスト 阿部悟郎(2018)体育哲学—プロトレプティコス—, 不昧堂出版 参考書・参考資料等 佐藤臣彦(1996)身体教育を哲学する, 北樹出版		
●履修条件 なし		

授業科目名	担当教員名		
スポーツ心理学	木村 駿介		
2単位			
教員の免許状取得のための「選択科目」(中学校) 「必修科目」(高等学校)	担当形態	単独	
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)		
<p>●授業の概要</p> <p>立つ、座る、歩くといった日常的な身体運動は当然のことながら、運動やスポーツはさまざまな文脈の中で取り組まれており、その活動目的は、教育、競技、レクリエーション、健康・医療と多岐にわたる。多種多様な活動の中で起こる現象に対して、基礎と応用からの科学的説明を目指すのがスポーツ心理学である。スポーツ心理学は、体育・スポーツの実践や指導に寄与するだけでなく、身体運動を手がかりに新たな人間理解を促す可能性を秘めている。本講義の達成目標は、スポーツ心理学領域における応用分野を中心に基礎的な知識を身に付け、体育・スポーツ現場での指導に生かす能力を身に付けることである。</p>			
<p>●授業の到達目標</p> <p>授業では、「自ら考える力(学習力・思考力・探求力)」「智能を磨く力(体育・スポーツ科学に関する智能)」及び「思想を培う力(体育・スポーツ科学を踏まえた社会性と国際性を培う力)」を育成する。また、学修の到達目標は、以下の通りである。 体育、スポーツ、運動関連事象におけるスポーツ心理学的捉え方を学び、説明できる。 体育、スポーツ、運動指導場面における効果的な指導に対して、スポーツ心理学的観点からの助言ができる。</p>			
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>			
第1週	はじめに(講義を始めるにあたって) スポーツ心理学講義全般の流れの説明を受け、本講義を学ぶ意義について学習する 事前学習:シラバスを読み、授業内容をイメージする	第8週	スポーツとパーソナリティ1 スポーツによるパーソナリティ形成の研究知見を学ぶ 小レポート 事後学習:講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
第2週	スポーツ心理学の概論と歴史 スポーツ心理学の概論と歴史について理解する 小レポート 事後学習:講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む	第9週	スポーツとパーソナリティ2 パーソナリティ形成における体験の質の重要性について学習する 小レポート 事後学習:講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
第3週	スポーツと動機づけ 動機づけの種類や達成目標との関係について学習する 小レポート 事後学習:講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む	第10週	競技心理 競技環境特有の現象とアスリートの心理的特徴について学ぶ 小レポート 事後学習:講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
第4週	スポーツと指導者 指導者の姿について、理念や暴力行為、意欲低下などから学習する 小レポート 事後学習:講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む	第11週	心理サポート 心理サポートの全般的動向について学ぶ 小レポート 事後学習:講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
第5週	子どものスポーツ 子どものスポーツを通じた心理的発達とそれに対する大人の影響および対応を学ぶ 小レポート 事後学習:講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む	第12週	スポーツメンタルトレーニング スポーツメンタルトレーニングについて基礎知識を学ぶ 事後学習:講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
第6週	スポーツへの参加と離脱 スポーツへの参加と離脱について背景因を学ぶ 小レポート 事後学習:講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む。	第13週	スポーツカウンセリング スポーツカウンセリングについて基礎知識を学ぶ 小レポート 事後学習:講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
第7週	運動とメンタルヘルス 運動による精神的健康について学ぶ。 小レポート 事後学習:講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む	第14週	まとめ これまでの復習を通じて、自身の理解を確認する 事後学習:講義の内容を振り返る。全体を復習し、試験に臨む
		第15週	定期試験
<p>●提出課題等</p> <p>毎回の講義ごとに、講義テーマに関わる小レポートを課す。</p>			
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>以下の観点より総合評価する。 毎授業時の小レポート及び特別レポート(60%) 期末試験(20%) 授業態度(20%)</p>			
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト なし</p> <p>参考書・ よくわかるスポーツ心理学 無藤隆 森敏昭 池上知子 福丸由佳(ミネルヴァ書房) 参考資料等 スポーツ・運動・パフォーマンスのための心理学 高見和至編(化学同人)</p>			
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>			

授業科目名		担当教員名																																	
スポーツ経営管理論		大沼 博晴																																	
2単位																																			
教員の免許状取得のための「選択科目」(中学校) 「必修科目」(高等学校)		担当形態	単独																																
科目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)																																	
施行規則に定める科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)																																	
<p>●授業の概要</p> <p>近年は、文化活動、経済活動としてのスポーツの組織をどのように形成し運営していくかが大きな課題となっており、まさに経営学的分析の社会的要請が高まっている。本講義においては、スポーツを事業として展開する組織の活動を、組織構造や環境、施設運営、消費者行動、マーケティング、スポーツ政策、リスクマネジメント、イベントの企画・実施、プロモーション活動といった様々な視点から取り上げ、スポーツ経営に関する知識やスキルの深化を図っていく。さらには、新しいテクノロジー(ICT)とスポーツとの関わりや活用の可能性についても言及する。</p>																																			
<p>●授業の到達目標</p> <p>本授業における到達目標は以下の3点となる。 ①スポーツ組織に関する運営方法や課題を説明することができるようになること。 ②スポーツ事業を展開する際のポイントを説明できるようになること。スポーツ事業を展開する際のリスクマネジメントについて説明できるようになること。 ③総合型地域スポーツクラブの役割、育成方法を説明できるようになること。</p>																																			
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">第1週</td> <td style="width: 50%;">オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の方法などを説明。</td> <td style="width: 25%;">第8週</td> <td style="width: 20%;">スポーツ施設の運営 スポーツ施設を効果・効率的に運営する際のポイントについて学修する。</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>スポーツ施設・経営 スポーツ経営やスポーツマネジメントの概念、スポーツ施設を運営する上でのポイントを学修する。</td> <td>第9週</td> <td>スポーツ事故の発生機序と予防 事故予防のマネジメントと指導者の法的責任について学修する。</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>スポーツ組織を考える スポーツ組織とは何か、その具体的な仕事について学修する。</td> <td>第10週</td> <td>スポーツにおける人権問題のマネジメント 基本的人権、暴力、虐待、セクハラの実態と予防について学修する。</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>スポーツ組織を取り巻く環境 スポーツ組織を取り巻く環境について学修する。</td> <td>第11週</td> <td>民間スポーツクラブの経営 フィットネスクラブの経営戦略とマネジメント課題について学修する。</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>顧客を考える スポーツ市場における顧客(スポーツ消費者)について学修する。</td> <td>第12週</td> <td>プロスポーツ経営を考える プロ野球とJリーグの経営状況や課題を含むプロスポーツチームの経営方法について学修する。</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>スポーツ事業 問題の組織化～計画～運営～評価のプロセスについて学修する。</td> <td>第13週</td> <td>まとめ 全体のまとめを行う。</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>スポーツマーケティング マーケティングにおける基本的要素(STP、4つのP)を学修する。特にプロモーションに焦点を当てる。</td> <td>第14週</td> <td>これからのスポーツ経営のあり方について ここまで学習した内容を参考にディスカッションを行う。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>第15週</td> <td>定期試験</td> </tr> </table>				第1週	オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の方法などを説明。	第8週	スポーツ施設の運営 スポーツ施設を効果・効率的に運営する際のポイントについて学修する。	第2週	スポーツ施設・経営 スポーツ経営やスポーツマネジメントの概念、スポーツ施設を運営する上でのポイントを学修する。	第9週	スポーツ事故の発生機序と予防 事故予防のマネジメントと指導者の法的責任について学修する。	第3週	スポーツ組織を考える スポーツ組織とは何か、その具体的な仕事について学修する。	第10週	スポーツにおける人権問題のマネジメント 基本的人権、暴力、虐待、セクハラの実態と予防について学修する。	第4週	スポーツ組織を取り巻く環境 スポーツ組織を取り巻く環境について学修する。	第11週	民間スポーツクラブの経営 フィットネスクラブの経営戦略とマネジメント課題について学修する。	第5週	顧客を考える スポーツ市場における顧客(スポーツ消費者)について学修する。	第12週	プロスポーツ経営を考える プロ野球とJリーグの経営状況や課題を含むプロスポーツチームの経営方法について学修する。	第6週	スポーツ事業 問題の組織化～計画～運営～評価のプロセスについて学修する。	第13週	まとめ 全体のまとめを行う。	第7週	スポーツマーケティング マーケティングにおける基本的要素(STP、4つのP)を学修する。特にプロモーションに焦点を当てる。	第14週	これからのスポーツ経営のあり方について ここまで学習した内容を参考にディスカッションを行う。			第15週	定期試験
第1週	オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の方法などを説明。	第8週	スポーツ施設の運営 スポーツ施設を効果・効率的に運営する際のポイントについて学修する。																																
第2週	スポーツ施設・経営 スポーツ経営やスポーツマネジメントの概念、スポーツ施設を運営する上でのポイントを学修する。	第9週	スポーツ事故の発生機序と予防 事故予防のマネジメントと指導者の法的責任について学修する。																																
第3週	スポーツ組織を考える スポーツ組織とは何か、その具体的な仕事について学修する。	第10週	スポーツにおける人権問題のマネジメント 基本的人権、暴力、虐待、セクハラの実態と予防について学修する。																																
第4週	スポーツ組織を取り巻く環境 スポーツ組織を取り巻く環境について学修する。	第11週	民間スポーツクラブの経営 フィットネスクラブの経営戦略とマネジメント課題について学修する。																																
第5週	顧客を考える スポーツ市場における顧客(スポーツ消費者)について学修する。	第12週	プロスポーツ経営を考える プロ野球とJリーグの経営状況や課題を含むプロスポーツチームの経営方法について学修する。																																
第6週	スポーツ事業 問題の組織化～計画～運営～評価のプロセスについて学修する。	第13週	まとめ 全体のまとめを行う。																																
第7週	スポーツマーケティング マーケティングにおける基本的要素(STP、4つのP)を学修する。特にプロモーションに焦点を当てる。	第14週	これからのスポーツ経営のあり方について ここまで学習した内容を参考にディスカッションを行う。																																
		第15週	定期試験																																
<p>●提出課題等</p> <p>授業時に毎回レポートを作成・提出する。</p>																																			
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>成績評価は、原則として授業貢献(20%、授業内で作成したレポートを含む)、小テスト1回(30%)、期末テスト(50%)として総合的に行う。</p>																																			
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト なし</p>																																			
<p>参考書・参考資料等 授業内で適宜指示する。</p>																																			
<p>●履修条件</p> <p>・私語・居眠り・授業に関係のない行為などを禁止する。 ・グループ学習を積極的に取り入れるため、他の学習者と協働で学習できる意思のある者を求める。</p>																																			

授業科目名	担当教員名	
スポーツ社会学	清宮 孝文	
2単位		
教員の免許状取得のための「選択科目」(中学校) 「必修科目」(高等学校)	担当形態	単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)	
<p>●授業の概要</p> <p>スポーツ社会学は、スポーツで起こっている社会現象や問題を社会学の視点から理解し、解決する学問である。また、社会現象や問題を、スポーツを通して理解する学問でもある。本講義では、現代社会におけるスポーツの役割や機能、社会的な価値、スポーツ独自の問題点を取り上げ、スポーツを専門に学ぶ学生の基礎的な知識の習得を目指す。また、スポーツ社会学で習得した知識をスポーツ経営学やスポーツビジネスなどの分野に応用できる能力の涵養も目指す。</p>		
<p>●授業の到達目標</p> <p>1. スポーツ社会学における基本的な理論や概念を理解し、説明することができる。 2. スポーツがいかに社会の関係との中で構成されているかを理解し、説明することができる。 3. スポーツ社会学で学習したことを、他のスポーツ科学専門科目への学習につなげていくことができる。</p>		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>		
第1週 ガイダンス 授業の概要、講義のルール、成績評価について説明する。	第8週	スポーツの傷害と暴力 「スポーツの倫理」がどのようにして、スポーツ傷害の問題を深刻にさせるのか、暴力の問題を引き起こすのかを学習する。
第2週 スポーツの定義 普段から何気なく行っている、観ているスポーツがどのように定義されるのかを学ぶ。テレビゲームがスポーツであるのかどうかについても考える。	第9週	ドーピングとスポーツ アスリートがドーピングを使用する背景について学習する。そして「スポーツの倫理」がどのようにドーピングの問題と関わっているのかを学習する。
第3週 スポーツマンシップの誕生とその変遷 スポーツマンシップについて学習する。スポーツマンシップを構成する要素やアマチュアリズムを中心に学習し、スポーツマンシップについて考える。	第10週	ジェンダーとスポーツ① 「性の対象化」について学習する。(西洋)スポーツは男性が育んできた規範、価値観、常識に支配されており、その中の女性の位置付けを学習する。
第4週 文化・社会の中のスポーツ スポーツがどのように近代の文化・社会形成、または変容を受けているのかを学習する。スポーツの価値がどのように形成されているのかについて考える。	第11週	ジェンダーとスポーツ② 性とスポーツの関係について学習する。スポーツの世界における性差がどのように表されるのか、そしてスポーツが性差をどのように強化するのかを学ぶ。
第5週 スポーツへの社会化① 個人が特定の文化・社会における規範、価値観、常識(イデオロギー)を獲得(習得)していくプロセスについて学習する。	第12週	人種とスポーツ スポーツの世界で、人種の問題がどのように起こっているのかを学習する。人種とスポーツの問題が遺伝的問題ではなく、社会的問題であることを学習する。
第6週 スポーツへの社会化② 「スポーツへの社会化①」で学習したことをスポーツへの参与に発展させて学習する。スポーツ参与を促進させるエージェントの役割を中心に学習する。	第13週	障害者とスポーツ 障害を健康や幸福度という観点から学習する。そして、障害者が抱える問題がスポーツの世界でどのように表されるのかを学習する。
第7週 逸脱とスポーツ 逸脱の概念と特徴について学習する。スポーツの世界において、逸脱を促進するメカニズムである「スポーツの倫理」について学習する。	第14週	まとめ
	第15週	定期試験
<p>●提出課題等</p> <p>本講義ではレポートを以下のように課す。 1. 各回の講義終了後にレポートを課し、次週に提出してもらう。これは、その単元で学習したことが理解できているかを把握するために課すものである。 2. スポーツへの社会化に関するレポートエッセイを課す。</p>		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>成績は以下の三つで評価する。レポートやエッセイで他人の文章を盗用したと判断された場合には単位を認めない。 1. 各講義の後の小レポート(15点) 2. レポートエッセイ(35点) 3. 定期試験(50点)</p>		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 特定のテキストは使わない。毎回、資料を配布する。</p>		
<p>参考書 『スポーツ社会学講義』森川貞夫・佐伯年詩雄編、1988(大修館) 参考資料等 『スポーツの社会学』池田勝・守能信次編、1998(杏林書院) 『現代スポーツの社会学:課題と共生への道のり』コークリー・ドネリー・前田和司ほか訳、2011(南窓社)</p>		
<p>●履修条件</p> <p>スポーツ人類学を履修済み、もしくは併せて履修することが望ましい。</p>		

授業科目名	担当教員名																	
スポーツ文化史	寒川 恒夫																	
2単位																		
教員の免許状取得のための「選択科目」(中学校) 「必修科目」(高等学校)	担当形態	単独																
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)																	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)																	
<p>●授業の概要</p> <p>日本のスポーツ文化は明治に始まると考える人が多いが、日本人は「スポーツ」という言葉こそ使わないものの、様々な種目の競技と遊びを古くからおこなっていた。それらは、日本人の発案になるものもあったであろうが、多くは様々な時期に大陸や島嶼部から伝来したもので、日本人は長い時の経過の中でこれらに特異な文化的工夫を施して日本化してしまう。今日、我々が日本独自と認識するものも、実はこうした新解釈の日本の変容であるものが多い。本講義では、史料と遺物と民俗誌・民族誌を総合して、主に日本人のスポーツ文化の歴史について考える。</p>																		
<p>●授業の到達目標</p> <p>①日本にスポーツをもたらした多様な文化波について理解できるようになる。 ②日本人のスポーツ文化と国際オリンピック委員会(IOC)が展開する国際スポーツ文化の違いを理解できるようになる。</p>																		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 33%;">第1週 本講義の概要説明</td> <td style="width: 33%;">第8週 中世のスポーツ</td> </tr> <tr> <td>第2週 日本人アイデンティティー論</td> <td>第9週 近世のスポーツ(1) 武術伝書に見る心法武術の世界</td> </tr> <tr> <td>第3週 魏志倭人伝の世界</td> <td>第10週 近世のスポーツ(2) 庶民のスポーツ</td> </tr> <tr> <td>第4週 古墳時代のスポーツ</td> <td>第11週 学校体育という近代の身体文化</td> </tr> <tr> <td>第5週 古代のスポーツ(1) 貴族のスポーツ</td> <td>第12週 嘉納治五郎の柔道と近代武道</td> </tr> <tr> <td>第6週 古代のスポーツ(2) 官人武士のスポーツ</td> <td>第13週 洋式スポーツの受容と変容(1) 軍隊</td> </tr> <tr> <td>第7週 古代のスポーツ(3) 庶民のスポーツ</td> <td>第14週 洋式スポーツの受容と変容(2) 学校、青年団</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第15週 定期試験</td> </tr> </tbody> </table>			第1週 本講義の概要説明	第8週 中世のスポーツ	第2週 日本人アイデンティティー論	第9週 近世のスポーツ(1) 武術伝書に見る心法武術の世界	第3週 魏志倭人伝の世界	第10週 近世のスポーツ(2) 庶民のスポーツ	第4週 古墳時代のスポーツ	第11週 学校体育という近代の身体文化	第5週 古代のスポーツ(1) 貴族のスポーツ	第12週 嘉納治五郎の柔道と近代武道	第6週 古代のスポーツ(2) 官人武士のスポーツ	第13週 洋式スポーツの受容と変容(1) 軍隊	第7週 古代のスポーツ(3) 庶民のスポーツ	第14週 洋式スポーツの受容と変容(2) 学校、青年団		第15週 定期試験
第1週 本講義の概要説明	第8週 中世のスポーツ																	
第2週 日本人アイデンティティー論	第9週 近世のスポーツ(1) 武術伝書に見る心法武術の世界																	
第3週 魏志倭人伝の世界	第10週 近世のスポーツ(2) 庶民のスポーツ																	
第4週 古墳時代のスポーツ	第11週 学校体育という近代の身体文化																	
第5週 古代のスポーツ(1) 貴族のスポーツ	第12週 嘉納治五郎の柔道と近代武道																	
第6週 古代のスポーツ(2) 官人武士のスポーツ	第13週 洋式スポーツの受容と変容(1) 軍隊																	
第7週 古代のスポーツ(3) 庶民のスポーツ	第14週 洋式スポーツの受容と変容(2) 学校、青年団																	
	第15週 定期試験																	
<p>●提出課題等</p> <p>なし</p>																		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>試験の結果に基づき、成績評価を行う。</p>																		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト なし</p>																		
<p>参考書・ 『日本の伝統競技』寒川恒夫(監修)、PHP研究所、2005。『写真・絵画集成 日本スポーツ史1「スポーツ前史」』寒川恒夫(監修)、日本図書センター、1996。『日本武道と東洋思想』 参考資料等 寒川恒夫、平凡社、2014。</p>																		
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																		

授業科目名	担当教員名																													
運動方法学	館 俊樹																													
2単位																														
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独																												
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)																													
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)																													
<p>●授業の概要</p> <p>身体運動の発現のしくみと、発現された身体運動がどのような特性を持って外に現れるのかを、身体の機能的生理特性と物理法則を通して理解するものである。また、学校における保健体育やスポーツの指導においては、「身体運動の指導を通じた教育」も重要であり、運動指導における教育的位置づけを考える必要もある。本講義では、スポーツや生活動作において、身体の各部位がどのように機能し、力を発揮しているかを学習していく。</p>																														
<p>●授業の到達目標</p> <p>①身体運動が発現する機能と力学的しくみを学ぶ。 ②物理法則を理解し効率的な身体コントロールの考え方を学ぶ。 ③運動指導への応用を考える。 の3つを目的とする。</p>																														
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">第1週</td> <td style="width: 33%;">オリエンテーション ・運動方法学の活用事例の紹介 ・スポーツ動作の運動方法学的解説</td> <td style="width: 33%;">第8週</td> <td>跳躍運動の理論 ・競技による跳躍の違い ・加齢、性別による動作の違い</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>関節の運動と生活動作 ・様々な生活動作と関節の動きについて</td> <td>第9週</td> <td>跳躍運動の分析 ・関節運動、速度の違いを検証</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>関節の運動とスポーツ動作 ・スポーツによくみられる動作と関節の動きについて</td> <td>第10週</td> <td>キック動作の理論 ・時代による変化 ・運動学的特性</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>走運動の理論 ・加齢、性別、競技による走運動の変化</td> <td>第11週</td> <td>投運動の理論 ・ボールの質量、表面積による変化 ・関節動作の変化</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>走動作の分析 ・競技力、スピードによる違いと関節の動きを客観的に分析</td> <td>第12週</td> <td>投運動の分析 ・フェーズにわけた関節の動き ・投球動作、バレーボールスパイク、テニスサーブの観察と評価</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>歩行の理論 ・加齢、性別による変化</td> <td>第13週</td> <td>衝撃緩衝の理論 ・着地、歩行、走りの衝撃緩衝</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>歩行動作の分析 ・路面、速度による変化 ・歩行の経済効率について</td> <td>第14週</td> <td>プレゼンテーションの作成 ・関節の動き、時間、力を軸にスポーツ動作の違いを表現する</td> </tr> </table>			第1週	オリエンテーション ・運動方法学の活用事例の紹介 ・スポーツ動作の運動方法学的解説	第8週	跳躍運動の理論 ・競技による跳躍の違い ・加齢、性別による動作の違い	第2週	関節の運動と生活動作 ・様々な生活動作と関節の動きについて	第9週	跳躍運動の分析 ・関節運動、速度の違いを検証	第3週	関節の運動とスポーツ動作 ・スポーツによくみられる動作と関節の動きについて	第10週	キック動作の理論 ・時代による変化 ・運動学的特性	第4週	走運動の理論 ・加齢、性別、競技による走運動の変化	第11週	投運動の理論 ・ボールの質量、表面積による変化 ・関節動作の変化	第5週	走動作の分析 ・競技力、スピードによる違いと関節の動きを客観的に分析	第12週	投運動の分析 ・フェーズにわけた関節の動き ・投球動作、バレーボールスパイク、テニスサーブの観察と評価	第6週	歩行の理論 ・加齢、性別による変化	第13週	衝撃緩衝の理論 ・着地、歩行、走りの衝撃緩衝	第7週	歩行動作の分析 ・路面、速度による変化 ・歩行の経済効率について	第14週	プレゼンテーションの作成 ・関節の動き、時間、力を軸にスポーツ動作の違いを表現する
第1週	オリエンテーション ・運動方法学の活用事例の紹介 ・スポーツ動作の運動方法学的解説	第8週	跳躍運動の理論 ・競技による跳躍の違い ・加齢、性別による動作の違い																											
第2週	関節の運動と生活動作 ・様々な生活動作と関節の動きについて	第9週	跳躍運動の分析 ・関節運動、速度の違いを検証																											
第3週	関節の運動とスポーツ動作 ・スポーツによくみられる動作と関節の動きについて	第10週	キック動作の理論 ・時代による変化 ・運動学的特性																											
第4週	走運動の理論 ・加齢、性別、競技による走運動の変化	第11週	投運動の理論 ・ボールの質量、表面積による変化 ・関節動作の変化																											
第5週	走動作の分析 ・競技力、スピードによる違いと関節の動きを客観的に分析	第12週	投運動の分析 ・フェーズにわけた関節の動き ・投球動作、バレーボールスパイク、テニスサーブの観察と評価																											
第6週	歩行の理論 ・加齢、性別による変化	第13週	衝撃緩衝の理論 ・着地、歩行、走りの衝撃緩衝																											
第7週	歩行動作の分析 ・路面、速度による変化 ・歩行の経済効率について	第14週	プレゼンテーションの作成 ・関節の動き、時間、力を軸にスポーツ動作の違いを表現する																											
<p>●提出課題等</p> <p>なし</p>																														
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>プレゼンテーションおよびレポートを総合的に判断する。</p>																														
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 配付資料。</p>																														
<p>参考書・なし 参考資料等</p>																														
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																														

授業科目名	担当教員名	
運動生理学	江間 諒一	
2単位		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学(運動生理学を含む。)	
<p>●授業の概要</p> <p>運動生理学は、身体運動によって身体の諸機能がどのような応答や適応を示すのか、そしてそれら応答や適応が生じるメカニズムは何かを明らかにする学問である。運動生理学に関する基本的な知識は、保健体育教員や健康運動実践者等の健康づくりに関わる仕事において必須となるものである。本講義では、身体を構成する各器官に関する基礎的知識を習得し、それらの器官が身体運動によってどのような応答や適応を示すのかを学ぶ。さらには、運動生理学的視点から、健康づくりにおける運動の意義について考える。</p>		
<p>●授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動生理学分野で用いられるキーワードを列挙することができる。 ・授業で取り上げたキーワードについて具体的に説明することができる。 ・身体運動を生み出す仕組みについて、キーワードを使って説明できる。 ・身体機能について影響する要因について説明できる。 ・運動を行う意義について、運動生理学的観点から説明できる。 		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>		
第1週 オリエンテーション、運動生理学概論	第8週	ストレッチングの理論と実践
第2週 骨格筋の構造と機能	第9週	身体機能に影響を及ぼす要因:トレーニング
第3週 身体運動が生じる仕組み:関節レベル	第10週	身体機能に影響を及ぼす要因:加齢、性別
第4週 身体運動が生じる仕組み:ミクロレベル	第11週	身体を構成する要素と運動による変化
第5週 骨格筋の収縮様式と身体運動との関連	第12週	運動と健康
第6週 神経系と身体運動	第13週	運動とエネルギー代謝
第7週 第1週～第6週のまとめ、学生間でキーワードの理解度相互チェック	第14週	定期試験
	第15週	総括、学生発表
<p>●提出課題等</p> <p>授業時に提出するレポート。</p>		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>授業時に提出してもらう毎回のレポート(30%)および定期試験(70%)で評価する。学生発表実施者については、その内容への評価を加味する。合計60%以上を合格とする。</p>		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト なし</p>		
<p>参考書・参考資料等 授業中に適時紹介する。</p>		
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>		

授業科目名	担当教員名	
公衆衛生学	山崎 秀夫	
2単位		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学・公衆衛生学	
<p>●授業の概要</p> <p>公衆衛生学とはヒト集団の健康を扱う学問であり、ヒト集団の疾病予防と健康増進を目的としている。したがって、この分野には疾病の原因を探ることだけでなく、予防を中心とした実践的な活動も含まれている。また、対象とする集団によって、幾つかの分野(母子保健、学校保健、産業保健、老人保健)が存在する。本講義では、公衆衛生学の様々な分野の中から、人口・保健統計、疫学、環境保健、地域保健、産業保健などを紹介していく。</p>		
<p>●授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口と保健統計の意義について説明できる。 ・疫学の考え方や調査方法について説明できる。 ・健康と環境との関係と環境保全について説明できる。 ・地域住民に対する保健活動について説明できる。 ・学校における保健活動について説明できる。 ・労働者に対する保健活動について説明できる。 		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>		
第1週 公衆衛生学序論	第8週 環境保健Ⅲ -環境保全-	
第2週 人口	第9週 地域保健・母子保健	
第3週 保健統計	第10週 老人保健	
第4週 疫学概論	第11週 学校保健	
第5週 感染症の疫学	第12週 産業保健Ⅰ -産業と保健活動-	
第6週 環境保健Ⅰ -環境要因-	第13週 産業保健Ⅱ -作業と健康管理-	
第7週 環境保健Ⅱ -地球環境問題-	第14週 精神保健	
	第15週 定期試験	
<p>●提出課題等</p> <p>なし</p>		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>試験及び小テストの結果に基づき、成績評価を行う。</p>		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 『シンプル衛生公衆衛生学』 鈴木庄亮・久道茂編集 南江堂</p>		
<p>参考書・参 考資料等</p> <p>なし</p>		
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>		

授業科目名	担当教員名																	
学校保健	和田 雅史・中井 真吾・市江 和子																	
2単位																		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	オムニバス																
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)																	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)																	
<p>●授業の概要</p> <p>中高教職科目としての学校保健学の基礎知識を学ぶ授業である。学校における児童、生徒、学生、教職員の健康と安全を守る主たる担い手として身に付けるべき知識として、学校保健とは何か、学校保健の目標とねらい、歴史について学んだ後、学校保健諸活動について具体的事例を取り上げながら授業を進める。また、授業では学校安全、精神保健、小児保健、救急処置についても取り扱う中で、特に子どもの現状と課題について考える授業を展開していく。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(和田 雅史／10回) 学校安全、精神保健について担当する。</p> <p>(中井 真吾／2回) 救急処置について担当する。</p> <p>(市江 和子／2回) 小児保健について担当する。</p>																		
<p>●授業の到達目標</p> <p>学校における生徒、教職員の健康安全にとって必要とされる基礎的知識の習得と中学校高等学校の教育現場で起こっている健康課題に着目しながら、その解決のための教育的手法を学ぶことにより、健康の保持増進を図る。さらには学校保健のねらいとして、発育発達という視点から最も効率的な教育環境、学習環境の整備を図ること。健康教育という視点から健康への理解と認識の育成を進めることにより、健康に対する予防を含む教育的な効果を図ること。他の人々の生命や健康に関心を持ち、社会の健康に貢献できるヘルスプロモーションの理念形成を図ることを講義の目標とする。</p>																		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1週 学校保健の意義とねらい (担当:和田)</td> <td style="width: 50%;">第8週 学校健康相談の実際 (担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第2週 学校保健の歴史と学校保健行政 (担当:和田)</td> <td>第9週 養護教諭の仕事と保健室の機能 (担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第3週 学校保健における保健学習の内容と実践 (担当:和田)</td> <td>第10週 学校保健組織と委員会活動の実際 (担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第4週 学校保健指導の意義と実際 (担当:和田)</td> <td>第11週 学校保健における救急処置の理論 (担当:中井)</td> </tr> <tr> <td>第5週 学校における安全教育とその指導 (担当:和田)</td> <td>第12週 救急処置の実際(心肺蘇生法を含む) (担当:中井)</td> </tr> <tr> <td>第6週 学校健康診断と事前事後活動(健康観察を含む) (担当:和田)</td> <td>第13週 学校保健における小児保健の理論 (担当:市江)</td> </tr> <tr> <td>第7週 精神保健と健康心理(ストレスマネジメントを含む) (担当:和田)</td> <td>第14週 小児保健としての健康課題とその予防 (担当:市江)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第15週 定期試験</td> </tr> </table>			第1週 学校保健の意義とねらい (担当:和田)	第8週 学校健康相談の実際 (担当:和田)	第2週 学校保健の歴史と学校保健行政 (担当:和田)	第9週 養護教諭の仕事と保健室の機能 (担当:和田)	第3週 学校保健における保健学習の内容と実践 (担当:和田)	第10週 学校保健組織と委員会活動の実際 (担当:和田)	第4週 学校保健指導の意義と実際 (担当:和田)	第11週 学校保健における救急処置の理論 (担当:中井)	第5週 学校における安全教育とその指導 (担当:和田)	第12週 救急処置の実際(心肺蘇生法を含む) (担当:中井)	第6週 学校健康診断と事前事後活動(健康観察を含む) (担当:和田)	第13週 学校保健における小児保健の理論 (担当:市江)	第7週 精神保健と健康心理(ストレスマネジメントを含む) (担当:和田)	第14週 小児保健としての健康課題とその予防 (担当:市江)		第15週 定期試験
第1週 学校保健の意義とねらい (担当:和田)	第8週 学校健康相談の実際 (担当:和田)																	
第2週 学校保健の歴史と学校保健行政 (担当:和田)	第9週 養護教諭の仕事と保健室の機能 (担当:和田)																	
第3週 学校保健における保健学習の内容と実践 (担当:和田)	第10週 学校保健組織と委員会活動の実際 (担当:和田)																	
第4週 学校保健指導の意義と実際 (担当:和田)	第11週 学校保健における救急処置の理論 (担当:中井)																	
第5週 学校における安全教育とその指導 (担当:和田)	第12週 救急処置の実際(心肺蘇生法を含む) (担当:中井)																	
第6週 学校健康診断と事前事後活動(健康観察を含む) (担当:和田)	第13週 学校保健における小児保健の理論 (担当:市江)																	
第7週 精神保健と健康心理(ストレスマネジメントを含む) (担当:和田)	第14週 小児保健としての健康課題とその予防 (担当:市江)																	
	第15週 定期試験																	
<p>●提出課題等</p> <p>毎回の授業後にリアクションペーパーを記入し提出する。</p>																		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>講義における受講態度、毎回提出するリアクションペーパー、講義内小テスト、到達度評価としてのテストにより評価する。</p>																		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 和田雅史編著「現代学校保健学」(共栄出版)</p> <p>参考書・参考資料等 新訂版学校保健実務必携 学校保健・安全実務研究会(第一法規)</p>																		
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																		

授業科目名	担当教員名																													
保健体育科教育法 I	笠井 義明																													
2単位																														
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独																												
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)																													
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)																													
<p>●授業の概要</p> <p>本授業では、保健体育科教育について、教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育の学習内容について理解を深めると共に、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。その際、生徒の実態を視野に入れることや、情報通信技術の効果的な活用法を理解した授業設計ができるようにする。</p> <p>教科「体育」では、「体づくり運動・器械運動・陸上競技・水泳・球技・武道・ダンス・体育理論」の学習内容と指導上の留意点を理解すると共に、よい授業と評価される映像視聴を通し、その要因や学習指導案の構成についてグループワークを通して学習する。</p> <p>教科「保健」では、「健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境」の学習内容と指導上の留意点を理解すると共に、授業作りのための基本的概念である教材研究の進め方やこれまで優れた授業実践と評価された授業のいくつかを取り上げ、その方法と技術について学習していく。</p>																														
<p>●授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校保健体育・高等学校保健体育の目標と内容等を理解している。 ・生徒の資質・能力及び身体能力の育成を促す「楽しい保健体育」を目指した授業設計を理解している。 ・保健体育で取り扱うICT機器をはじめとした情報通信技術の効果的な活用法を理解している。 ・小学校・中学校・高等学校の学びの系統性を踏まえ、授業設計に活用することができる。 																														
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション ①保健体育のこれまでとこれから ②21世紀における保健体育の存在意義と保健体育教師の在り方</td> <td>第8週</td> <td>オリエンテーション 保健科教育の目的と意義</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>保健体育科の目標と内容(生涯スポーツの基礎として学校体育)</td> <td>第9週</td> <td>保健科教育の歴史と実践課題</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>主体的・対話的で深い体育授業の在り方(ICTの活用含む) 学習と指導と評価の一体化</td> <td>第10週</td> <td>学習指導要領に見る保健科教育内容の系統性とカリキュラムマネジメントの考え方(学習指導案作成のための考え方)</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>領域別指導法① よい授業の映像視聴 体づくり運動・ダンスの模擬授業と省察</td> <td>第11週</td> <td>保健科教育の目標論と教育内容の構成原理</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>領域別指導法② よい授業の映像視聴 器械運動・陸上競技・水泳の模擬授業と省察</td> <td>第12週</td> <td>保健科教育における学力論</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>領域別指導法③ よい授業の映像視聴 球技・武道の模擬授業と省察</td> <td>第13週</td> <td>諸外国と日本の保健科教育の比較</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>領域別指導法④ 体育理論の模擬授業と省察 発展的学習内容の探求と実践研究の動向を踏まえた授業設計・最終レポートの提出</td> <td>第14週</td> <td>保健科教育に求められる教師像ー優れた研究と実践に学ぶ</td> </tr> </tbody> </table>			第1週	オリエンテーション ①保健体育のこれまでとこれから ②21世紀における保健体育の存在意義と保健体育教師の在り方	第8週	オリエンテーション 保健科教育の目的と意義	第2週	保健体育科の目標と内容(生涯スポーツの基礎として学校体育)	第9週	保健科教育の歴史と実践課題	第3週	主体的・対話的で深い体育授業の在り方(ICTの活用含む) 学習と指導と評価の一体化	第10週	学習指導要領に見る保健科教育内容の系統性とカリキュラムマネジメントの考え方(学習指導案作成のための考え方)	第4週	領域別指導法① よい授業の映像視聴 体づくり運動・ダンスの模擬授業と省察	第11週	保健科教育の目標論と教育内容の構成原理	第5週	領域別指導法② よい授業の映像視聴 器械運動・陸上競技・水泳の模擬授業と省察	第12週	保健科教育における学力論	第6週	領域別指導法③ よい授業の映像視聴 球技・武道の模擬授業と省察	第13週	諸外国と日本の保健科教育の比較	第7週	領域別指導法④ 体育理論の模擬授業と省察 発展的学習内容の探求と実践研究の動向を踏まえた授業設計・最終レポートの提出	第14週	保健科教育に求められる教師像ー優れた研究と実践に学ぶ
第1週	オリエンテーション ①保健体育のこれまでとこれから ②21世紀における保健体育の存在意義と保健体育教師の在り方	第8週	オリエンテーション 保健科教育の目的と意義																											
第2週	保健体育科の目標と内容(生涯スポーツの基礎として学校体育)	第9週	保健科教育の歴史と実践課題																											
第3週	主体的・対話的で深い体育授業の在り方(ICTの活用含む) 学習と指導と評価の一体化	第10週	学習指導要領に見る保健科教育内容の系統性とカリキュラムマネジメントの考え方(学習指導案作成のための考え方)																											
第4週	領域別指導法① よい授業の映像視聴 体づくり運動・ダンスの模擬授業と省察	第11週	保健科教育の目標論と教育内容の構成原理																											
第5週	領域別指導法② よい授業の映像視聴 器械運動・陸上競技・水泳の模擬授業と省察	第12週	保健科教育における学力論																											
第6週	領域別指導法③ よい授業の映像視聴 球技・武道の模擬授業と省察	第13週	諸外国と日本の保健科教育の比較																											
第7週	領域別指導法④ 体育理論の模擬授業と省察 発展的学習内容の探求と実践研究の動向を踏まえた授業設計・最終レポートの提出	第14週	保健科教育に求められる教師像ー優れた研究と実践に学ぶ																											
<p>●提出課題等</p> <p>1) 授業のまとめ(授業内容・学んだこと・質問等)を毎時間行い提出する。 2) 最終レポートとして、典型教材(体育分野・保健分野から選択)での学習指導案(一時間分)を作成し、提出する。</p>																														
<p>●成績の評価方法・基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内プレゼンテーション(20%) ・授業内活動への参加状況(50%) ・最終レポート(30%) 																														
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト ・中学校学習指導要領解説(保健体育)(平成29年7月 文部科学省) ・高等学校学習指導要領解説(保健体育編・体育編)(平成30年7月 文部科学省)</p> <p>参考書・ ・中学校学習指導要領(平成29年3月 文部科学省) 参考資料等 ・高等学校学習指導要領(平成30年3月 文部科学省)</p>																														
<p>●履修条件</p> <p>1) 全出席が単位認定の条件。 2) 欠席・遅刻は原則認めない。</p>																														

授業科目名	担当教員名																													
保健体育科教育法Ⅱ	高橋 和子・和田 雅史																													
2単位																														
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	オムニバス																												
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)																													
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)																													
<p>●授業の概要</p> <p>本授業では、保健体育科教育について、学習指導要領改訂(2017年・2018年)の経緯や基本方針・ポイント、「3つの資質能力(知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等)」並びに、個別の学習内容と評価、指導上の留意点について理解を深める。さらに、情報通信技術を積極的に活用して各分野の特質に応じた授業設計と学習指導案を作成することができるようにする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(高橋 和子/7回) 教科「体育」では、7つの運動領域の各特性や魅力を理解すると共に、「個に応じた指導の充実」「障害のある生徒への配慮」に基づく、指導の実際について、グループワークを通して検討する。また、小学校・中学校・高等学校の学びの系統性を踏まえた授業設計を理解することができるようにする。</p> <p>(和田 雅史/7回) 教科「保健」では、学習指導要領及び学習指導要領解説、さらには中学・高校で使用されている教科書教材を検討する中で、授業で扱う基本的内容の理解をすすめながら授業作りへの準備を行う。</p>																														
<p>●授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校保健体育・高等学校保健体育科目の目標と主な内容等を理解している。 ・生徒の資質・能力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 ・保健体育で取り扱うICT機器をはじめとした情報通信技術の効果的な活用法を理解するとともに、小学校・中学校・高等学校の学びの系統性を踏まえ、授業設計に活用することができる。 ・学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計ができる。 																														
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション(保健体育のこれまでとこれから) 中学校/高等学校保健体育科の目標 (新学習指導要領の目標についての理解) (担当:高橋)</td> <td>第8週</td> <td>優れた保健授業の創造のために (担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>保健体育のスコープとシーケンス (新学習指導要領の内容についての理解) (担当:高橋)</td> <td>第9週</td> <td>保健科授業における学習指導案作成のための教材づくりと教具の活用方法 (担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>保健体育教師の専門性 (担当:高橋)</td> <td>第10週</td> <td>保健科授業における学習指導案作成のための授業づくりの方法と理論 (担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>運動の特性に着目した授業づくりの方法 体育科における評価の在り方、指導案の作成方法 (担当:高橋)</td> <td>第11週</td> <td>保健科授業における模擬授業を想定した教科書教材の研究と資料づくりの方法およびその評価 (担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>課題解決的な学習を活用した体育授業の在り方 (ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの方法①) (担当:高橋)</td> <td>第12週</td> <td>学習指導要領とその解説の活用 (担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>協同的な学習を活用した体育授業の在り方(学習指導案作成含む) (主体的・対話的で深い学びの方法②) (担当:高橋)</td> <td>第13週</td> <td>保健科授業における模擬授業を想定した課題解決型の学習を活用した授業づくりとその評価(主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくり) (担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>戦術学習を活用した体育授業の在り方(模擬授業実施を通じた授業改善) (主体的・対話的で深い学びの方法③) 発展的学習内容の探求と実践研究の動向を踏まえた授業設計・最終レポート提出 (担当:高橋)</td> <td>第14週</td> <td>保健科教育における評価の理論 (担当:和田)</td> </tr> </tbody> </table>			第1週	オリエンテーション(保健体育のこれまでとこれから) 中学校/高等学校保健体育科の目標 (新学習指導要領の目標についての理解) (担当:高橋)	第8週	優れた保健授業の創造のために (担当:和田)	第2週	保健体育のスコープとシーケンス (新学習指導要領の内容についての理解) (担当:高橋)	第9週	保健科授業における学習指導案作成のための教材づくりと教具の活用方法 (担当:和田)	第3週	保健体育教師の専門性 (担当:高橋)	第10週	保健科授業における学習指導案作成のための授業づくりの方法と理論 (担当:和田)	第4週	運動の特性に着目した授業づくりの方法 体育科における評価の在り方、指導案の作成方法 (担当:高橋)	第11週	保健科授業における模擬授業を想定した教科書教材の研究と資料づくりの方法およびその評価 (担当:和田)	第5週	課題解決的な学習を活用した体育授業の在り方 (ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの方法①) (担当:高橋)	第12週	学習指導要領とその解説の活用 (担当:和田)	第6週	協同的な学習を活用した体育授業の在り方(学習指導案作成含む) (主体的・対話的で深い学びの方法②) (担当:高橋)	第13週	保健科授業における模擬授業を想定した課題解決型の学習を活用した授業づくりとその評価(主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくり) (担当:和田)	第7週	戦術学習を活用した体育授業の在り方(模擬授業実施を通じた授業改善) (主体的・対話的で深い学びの方法③) 発展的学習内容の探求と実践研究の動向を踏まえた授業設計・最終レポート提出 (担当:高橋)	第14週	保健科教育における評価の理論 (担当:和田)
第1週	オリエンテーション(保健体育のこれまでとこれから) 中学校/高等学校保健体育科の目標 (新学習指導要領の目標についての理解) (担当:高橋)	第8週	優れた保健授業の創造のために (担当:和田)																											
第2週	保健体育のスコープとシーケンス (新学習指導要領の内容についての理解) (担当:高橋)	第9週	保健科授業における学習指導案作成のための教材づくりと教具の活用方法 (担当:和田)																											
第3週	保健体育教師の専門性 (担当:高橋)	第10週	保健科授業における学習指導案作成のための授業づくりの方法と理論 (担当:和田)																											
第4週	運動の特性に着目した授業づくりの方法 体育科における評価の在り方、指導案の作成方法 (担当:高橋)	第11週	保健科授業における模擬授業を想定した教科書教材の研究と資料づくりの方法およびその評価 (担当:和田)																											
第5週	課題解決的な学習を活用した体育授業の在り方 (ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの方法①) (担当:高橋)	第12週	学習指導要領とその解説の活用 (担当:和田)																											
第6週	協同的な学習を活用した体育授業の在り方(学習指導案作成含む) (主体的・対話的で深い学びの方法②) (担当:高橋)	第13週	保健科授業における模擬授業を想定した課題解決型の学習を活用した授業づくりとその評価(主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくり) (担当:和田)																											
第7週	戦術学習を活用した体育授業の在り方(模擬授業実施を通じた授業改善) (主体的・対話的で深い学びの方法③) 発展的学習内容の探求と実践研究の動向を踏まえた授業設計・最終レポート提出 (担当:高橋)	第14週	保健科教育における評価の理論 (担当:和田)																											
<p>●提出課題等</p> <p>1) 授業のまとめ(授業内容・学んだこと・質問等)を毎時間行い提出する。 2) 最終レポートとして、典型教材(体育分野・保健分野から1つ選択)での単元計画・学習指導案を作成し、提出する。</p>																														
<p>●成績の評価方法・基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内プレゼンテーション(20%) ・授業内活動への参加状況(50%) ・最終レポート(30%) 																														
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト ・中学校学習指導要領解説(保健体育)(平成29年7月 文部科学省) ・高等学校学習指導要領解説(保健体育編・体育編)(平成30年7月 文部科学省)</p> <p>参考書・参考資料等 ・中学校学習指導要領(平成29年3月 文部科学省) ・高等学校学習指導要領(平成30年3月 文部科学省) ・中学・高校保健体育教科書(2018)(大修館書店)</p>																														
<p>●履修条件</p> <p>1) 全出席が単位認定の条件。 2) 欠席・遅刻は原則、認めない。 3) 保健体育科教育法Ⅰの単位修得者。</p>																														

<p style="text-align: center;">授業科目名</p> <p style="text-align: center;">保健体育科教育法Ⅲ</p>		<p style="text-align: center;">担当教員名</p> <p style="text-align: center;">小澤 治夫</p>	
2単位			
<p>教員の免許状取得のための「必修科目」</p>		<p>担当形態</p>	<p>単独</p>
<p>科 目</p>		<p>教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)</p>	
<p>施行規則に定める科目区分又は事項等</p>		<p>各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)</p>	
<p>●授業の概要</p> <p>本授業では架橋科目の位置づけとして、学習指導要領に示され保健科教育並びに体育科教育で扱われる学習素材をどのようにして教材化するかの具体的方法の学習を展開する。「体育」では、「体づくり運動・器械運動・陸上運動・水泳・球技・武道・ダンス・体育理論(体育に関する知識)」などの教材化、「保健」では、中学校においては「心身の機能の発達と心の健康」「健康と環境」「傷害の防止、健康な生活と疾病」、高校においては「現代社会と健康」「生涯を通じる健康」「社会生活と健康」などの教材化について学習させる。学習指導案の基礎や実際の授業で活用する教具やICTの活用についても学習し、学習指導案作成やマイクロティーチングなどをグループワークを通して教材作成・授業設計・授業遂行の能力を高める。</p>			
<p>●授業の到達目標</p> <p>体育授業を実際に行うことのできる技術の基礎を学び、学外での観察授業で授業を評価できる力を身に付ける。そのために保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱでの学習を基礎にして、体育授業の作り方と保健授業の作り方を学習し、自身も授業を展開できる力を養う。学習指導要領および教科書に従って各自が単元計画、単位時間計画を作成し、それに基づいて模擬授業を展開し、討論、評価を行い、授業遂行能力を身に付ける。</p>			
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>			
<p>第1週</p>	<p>オリエンテーション:授業計画と内容の概説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育教材は私たちの体の何をどう変えるのか(体育教材の意義) ・学習材を加工する(動き+音楽+人数+用具など) 	<p>第8週</p>	<p>保健授業の作り方とそのプロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問の仕方 ・教具を活用した保健授業づくり ・典型教材を用いた保健授業の実際 ・ICTを用いた保健授業の基礎
<p>第2週</p>	<p>よい体育授業の作り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よい体育授業の条件とは ・意味のある事(よい教材)を熱意をもって(コミュニケーションスキル)上手に(教具などの活用)教える 	<p>第9週</p>	<p>「健康な生活と疾病の予防」の教材化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣と疾病 ・感染症と健康 ・薬物乱用と健康 ・運動・食事・休養や睡眠と健康 ・がん ・模擬授業(マイクロティーチング)
<p>第3週</p>	<p>教材と教材性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材を料理する ・教材性とは ・上位教材と下位教材 ・学習指導要領で扱われる体育教材とその特性について 	<p>第10週</p>	<p>「心身の機能の発達と心の健康」の教材化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身の機能の発達 ・ストレスと心身の関係 ・「体ほぐし運動」と心身の健康(保健と体育の連携) ・模擬授業(マイクロティーチング)
<p>第4週</p>	<p>教具(学習支援装置)とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教具の実例 ・教具作成課題 ・教具の機能 ・教具を用いた体育授業 ・教具を用いた保健授業 	<p>第11週</p>	<p>「傷害の防止、健康な生活と疾病」の教材化と授業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案作成(心肺蘇生の習得・応急手当の理論と実際) ・学習指導案作成(各種運動やスポーツ中の傷害とその対応-保健と体育の連携)
<p>第5週</p>	<p>体育模擬授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成教具の発表 ・単元計画作成 ・模擬授業(球技・陸上競技)のための学習指導案づくり ・学習指導案のグループ討議 ・作成学習指導案の発表 	<p>第12週</p>	<p>「健康と環境」の教材化と授業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案作成(大気汚染・水質汚濁) ・学習指導案作成(典型教材としての公害病-水俣病・四日市ぜんそく、気象条件と環境-熱中症など、快適な生活環境・家庭生活環境と健康)
<p>第6週</p>	<p>体育教材の学問的意義・考え方とその実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育授業(球技:サッカー、バレーボール 陸上競技:ハードル走)の教材化 ・体育模擬授業(マイクロティーチング) ・模擬授業の振り返り 	<p>第13週</p>	<p>高校保健「現代社会と健康」「傷害を通じる健康」「社会生活と健康」の教材化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・典型教材を選択した模擬授業(マイクロティーチング)の実施 ・模擬授業(マイクロティーチング)の評価と振り返り及び討議
<p>第7週</p>	<p>体育模擬授業の反省と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形成的授業評価 ・教師行動の評価(Quality Control Sheet for Teaching:QCシートの活用) 	<p>第14週</p>	<p>現代的健康課題と保健授業/保健模擬授業の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん教育 ・ICTを用いた保健授業の応用 ・健康評価を用いた保健授業 ・教師行動の評価(QCシートの活用)
<p>●提出課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教具を作成する。 ・授業のまとめを所定の書式に従って作成し毎時間行い提出する。 ・最終レポートとして典型教材での単元計画・学習指導案を作成し、提出する。 			
<p>●成績の評価方法・基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業後に提出された授業レポート、制作物、最終レポート等を総合して評価を行う。 			
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト ・テキストは用いないが、毎回プリントを配布するので参考にすること。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領(平成29年3月 文部科学省) ・高等学校学習指導要領(平成30年3月 文部科学省) ・中学校学習指導要領解説(保健体育)(平成29年7月 文部科学省) ・高等学校学習指導要領解説(保健体育編・体育編)(平成30年7月 文部科学省) ・中学・高校保健体育教科書(大修館書店) ・体育授業を観察評価する(明和出版)高橋健夫編 ・ステップアップ高校スポーツ(大修館書店) ・体育の授業を創る(大修館書店)高橋健夫編 ・保健の授業づくり入門(大修館書店)森昭三 和唐正勝編 		
<p>●履修条件</p> <p>保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱの単位修得者。</p>			

授業科目名	担当教員名																													
保健体育科教育法Ⅳ	高橋 和子・和田 雅史																													
2単位																														
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	オムニバス																												
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)																													
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)																													
<p>●授業の概要</p> <p>本授業では、学習指導要領及び学習指導要領解説保健体育編の趣旨を踏まえながら、各自が模擬授業実施とその振り返りを行い、コミュニケーション能力や論理的な思考の育成を図ると共に、情報通信技術の活用を含めた教授技術の向上を目指す。主に、学習指導案の作成と教科内容の指導方法に関わる知識と技能について、実践的に修得する。また、体育分野と保健分野で示された内容について相互の関連が図れるように留意する。さらに、「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(高橋 和子/7回) 「体育」では、「体づくり運動・器械運動・陸上運動・水泳・球技・武道・ダンス・体育理論」の目標・内容・指導方法・評価を明示し、模擬授業実践後の振り返りも重視する。</p> <p>(和田 雅史/7回) 「保健」では、指導計画、指導案の作成、板書計画などの授業作りの基本を学んだ後、中学校の内容に沿った模擬授業を行い、授業後の授業評価を通じてお互いの実践力を高めていく。</p>																														
<p>●授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校保健体育・高等学校保健体育の目標と主な内容等を理解している。 ・保健体育で取り扱うICT機器をはじめとした情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ・保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習を基礎にして、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 ・模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 ・保健体育における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。 																														
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション ①保健体育のこれまでとこれから ②気づきによる体育授業の在り方(主体的・対話的で深い学びの方法)(担当:高橋)</td> <td>第8週</td> <td>保健の授業作りと模擬授業①—学習指導案の作成の手順(担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>より良い体育授業を創るための理論と方法 (反省的実践家としての教師行動及び指導案作成)(担当:高橋)</td> <td>第9週</td> <td>保健の授業作りと模擬授業②—理解を深める板書の理論と学習指導案作成における板書計画の意義と評価(情報通信技術の活用を含む)(担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>ルーブリックの作成と共有 (学習と指導と評価の一体化、カリキュラム・マネジメント)(担当:高橋)</td> <td>第10週</td> <td>保健の授業作りと模擬授業③—発問と課題提示(情報通信技術の活用を含む)(担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>体育分野の領域別指導法(模擬授業A,Bチーム1回目と省察) ①体づくり運動・ダンス ②器械運動・陸上競技・水泳(担当:高橋)</td> <td>第11週</td> <td>保健の授業作りと模擬授業④—実験実習の方法(担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>体育分野の領域別指導法(模擬授業C,Dチーム1回目と省察) ③球技・武道 ④体育理論(担当:高橋)</td> <td>第12週</td> <td>保健の授業作りと模擬授業⑤—ディスカッション、ロールプレイングの活用(担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>体育分野の領域別指導法(模擬授業A,Bチーム2回目と省察) ①体づくり運動・ダンス ②器械運動・陸上競技・水泳(担当:高橋)</td> <td>第13週</td> <td>保健の授業作りと模擬授業⑥—思考力を高めよく分かる授業(担当:和田)</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>体育分野の領域別指導法(模擬授業C,Dチーム2回目と省察) ③球技・武道 ④体育理論 発展的学習内容の探求と実践研究の動向を踏まえた授業設計・最終レポート提出(担当:高橋)</td> <td>第14週</td> <td>振り返りとまとめ—授業の点検と評価(担当:和田)</td> </tr> </tbody> </table>			第1週	オリエンテーション ①保健体育のこれまでとこれから ②気づきによる体育授業の在り方(主体的・対話的で深い学びの方法)(担当:高橋)	第8週	保健の授業作りと模擬授業①—学習指導案の作成の手順(担当:和田)	第2週	より良い体育授業を創るための理論と方法 (反省的実践家としての教師行動及び指導案作成)(担当:高橋)	第9週	保健の授業作りと模擬授業②—理解を深める板書の理論と学習指導案作成における板書計画の意義と評価(情報通信技術の活用を含む)(担当:和田)	第3週	ルーブリックの作成と共有 (学習と指導と評価の一体化、カリキュラム・マネジメント)(担当:高橋)	第10週	保健の授業作りと模擬授業③—発問と課題提示(情報通信技術の活用を含む)(担当:和田)	第4週	体育分野の領域別指導法(模擬授業A,Bチーム1回目と省察) ①体づくり運動・ダンス ②器械運動・陸上競技・水泳(担当:高橋)	第11週	保健の授業作りと模擬授業④—実験実習の方法(担当:和田)	第5週	体育分野の領域別指導法(模擬授業C,Dチーム1回目と省察) ③球技・武道 ④体育理論(担当:高橋)	第12週	保健の授業作りと模擬授業⑤—ディスカッション、ロールプレイングの活用(担当:和田)	第6週	体育分野の領域別指導法(模擬授業A,Bチーム2回目と省察) ①体づくり運動・ダンス ②器械運動・陸上競技・水泳(担当:高橋)	第13週	保健の授業作りと模擬授業⑥—思考力を高めよく分かる授業(担当:和田)	第7週	体育分野の領域別指導法(模擬授業C,Dチーム2回目と省察) ③球技・武道 ④体育理論 発展的学習内容の探求と実践研究の動向を踏まえた授業設計・最終レポート提出(担当:高橋)	第14週	振り返りとまとめ—授業の点検と評価(担当:和田)
第1週	オリエンテーション ①保健体育のこれまでとこれから ②気づきによる体育授業の在り方(主体的・対話的で深い学びの方法)(担当:高橋)	第8週	保健の授業作りと模擬授業①—学習指導案の作成の手順(担当:和田)																											
第2週	より良い体育授業を創るための理論と方法 (反省的実践家としての教師行動及び指導案作成)(担当:高橋)	第9週	保健の授業作りと模擬授業②—理解を深める板書の理論と学習指導案作成における板書計画の意義と評価(情報通信技術の活用を含む)(担当:和田)																											
第3週	ルーブリックの作成と共有 (学習と指導と評価の一体化、カリキュラム・マネジメント)(担当:高橋)	第10週	保健の授業作りと模擬授業③—発問と課題提示(情報通信技術の活用を含む)(担当:和田)																											
第4週	体育分野の領域別指導法(模擬授業A,Bチーム1回目と省察) ①体づくり運動・ダンス ②器械運動・陸上競技・水泳(担当:高橋)	第11週	保健の授業作りと模擬授業④—実験実習の方法(担当:和田)																											
第5週	体育分野の領域別指導法(模擬授業C,Dチーム1回目と省察) ③球技・武道 ④体育理論(担当:高橋)	第12週	保健の授業作りと模擬授業⑤—ディスカッション、ロールプレイングの活用(担当:和田)																											
第6週	体育分野の領域別指導法(模擬授業A,Bチーム2回目と省察) ①体づくり運動・ダンス ②器械運動・陸上競技・水泳(担当:高橋)	第13週	保健の授業作りと模擬授業⑥—思考力を高めよく分かる授業(担当:和田)																											
第7週	体育分野の領域別指導法(模擬授業C,Dチーム2回目と省察) ③球技・武道 ④体育理論 発展的学習内容の探求と実践研究の動向を踏まえた授業設計・最終レポート提出(担当:高橋)	第14週	振り返りとまとめ—授業の点検と評価(担当:和田)																											
<p>●提出課題等</p> <p>1) 授業のまとめを毎時間行い提出する。 2) 最終レポートとして、典型教材(体育分野・保健分野各々)での単元計画・学習指導案を作成し、提出する。</p>																														
<p>●成績の評価方法・基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施・省察の状況(30%) ・授業内プレゼンテーション(20%) ・授業内活動への参加状況(30%) ・最終レポート(20%) 																														
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト ・中学校学習指導要領解説(保健体育)(平成29年7月 文部科学省) ・高等学校学習指導要領解説(保健体育編・体育編)(平成30年7月 文部科学省)</p> <p>参考書・参考資料等 ・中学校学習指導要領(平成29年3月 文部科学省) ・高等学校学習指導要領(平成30年3月 文部科学省) ・中学・高校保健体育教科書(2018)(大修館書店) ・学び手の視点から創る中学校・高等学校の保健体育授業:体育編(2016)(大学教育出版)</p>																														
<p>●履修条件</p> <p>1) 保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位修得者。 2) 全出席が単位認定の条件。 3) 欠席・遅刻は原則、認めない。</p>																														

授業科目名	担当教員名	
日本国憲法	緒方博幸	
2単位		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等	・日本国憲法	
<p>●授業の概要</p> <p>日本国憲法は、施行からおよそ70年余が経過し、過去様々な議論に晒されながらも戦後日本の進路に対して、わが国の最高法規として基本的な方針を示してきた。今般、改正の是非が囁かれるなか、その存在意義が問われている。本講義では、日本国憲法の二大テーマである基本的人権及び統治機構を中心に論じつつ、現在議論が高まっている憲法改正、また、天皇の生前退位等にも言及する。可能な限り受講生の皆さんにも発言してもらうよう双方向の講義を心掛ける。</p>		
<p>●授業の到達目標</p> <p>日本国憲法の基本原理を論じつつ主要な学説及び判例を紹介し、憲法に対する基本的な理解を深めてもらうと共に、リーガルマインドを育てることを目標とする。判例検索の方法、六法の読み方及び憲法特有の語彙や言い回しについても可能な限り解説し、半年間の講義終了後には、それらもマスターしてもらう予定である。</p>		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>		
第1週 憲法総論Ⅰ：憲法とは何か	第8週	人権各論(6)：参政権・国務請求権
第2週 人権総論：人権保障の対象	第9週	統治総論：国民主権と権力分立
第3週 人権各論(1)：幸福追求権と法の下での平等	第10週	統治各論(1)：国会
第4週 人権各論(2)：精神的自由権	第11週	統治各論(2)：内閣
第5週 人権各論(3)：経済的自由権	第12週	統治各論(3)：裁判所
第6週 人権各論(4)：社会権	第13週	統治各論(4)：財政と地方自治
第7週 人権各論(5)：人身の自由	第14週	統治各論(5)：憲法改正の可能性 憲法総論Ⅱ：天皇の地位・平和主義
	第15週	定期試験
<p>●提出課題等</p> <p>途中レポート提出(1回)を求める。 詳細は講義中に指示をする。</p>		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>定期試験(70%)及び課題レポートの内容(30%)で総合的に評価する。</p>		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 使用しない(毎回レジュメを配布)。</p>		
<p>参考書・参考資料等 日本国憲法の条文(携帯用の六法を購入するか、ネット等から条文をダウンロードして持参すること)。</p>		
<p>●履修条件</p> <p>積極的な学生の履修を希望する。</p>		

授業科目名	担当教員名															
スポーツA	塚本 博之															
1単位																
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独														
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目															
施行規則に定める科目区分又は事項等	・体育															
<p>●授業の概要</p> <p>ネット型球技の代表として、バレーボールを中心に授業を進めていく。バレーボールに関する、サーブ、レセプション、トス、スパイク、ブロック、パスといった基本的技術を身に付けると共に、それらの理論や指導法についても学んでいく。また、バレーボール特有のローテーションやポジションに関するルールを理解出来るようにする。そして、実際の試合を通して個々の技術のスキルアップを目指すと共に、仲間と協力してボールを繋いでいく技術や、バレーボール本来の楽しさをチームメイトと共有できることを目指す。さらに、技能向上だけでなく、9人制バレーやソフトバレーなど、生涯スポーツとしてのバレーボールを楽しむ工夫を探索し、性別や技術レベルが異なっても、一緒にゲームを楽しむ方法なども企画・実践していく。</p>																
<p>●授業の到達目標</p> <p>バレーボールの基本技術を身に付けるとともに、チームメイトと協力して積極的にゲームに参加できるようにする。また、ゲームを通してバレーボールのゲームの仕組みやルールについての理解を深める。</p>																
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1週 ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">第8週 基本技VI(レセプション)とゲーム</td> </tr> <tr> <td>第2週 バレーボールの歴史とルール</td> <td>第9週 総合練習とゲームの進め方</td> </tr> <tr> <td>第3週 基本技術I(オーバーハンドパス)とゲーム</td> <td>第10週 応用技術I(ローテーション)とゲーム</td> </tr> <tr> <td>第4週 基本技術II(アンダーパス)とゲーム</td> <td>第11週 応用技術II(ポジションチェンジ)とゲーム</td> </tr> <tr> <td>第5週 基本技術III(スパイク)とゲーム</td> <td>第12週 バレーボールのゲームの仕組み</td> </tr> <tr> <td>第6週 基本技術IV(ブロック)とゲーム</td> <td>第13週 バレーボールに必要な体力</td> </tr> <tr> <td>第7週 基本技V(サーブ)とゲーム</td> <td>第14週 ゲームとまとめ</td> </tr> </table>			第1週 ガイダンス	第8週 基本技VI(レセプション)とゲーム	第2週 バレーボールの歴史とルール	第9週 総合練習とゲームの進め方	第3週 基本技術I(オーバーハンドパス)とゲーム	第10週 応用技術I(ローテーション)とゲーム	第4週 基本技術II(アンダーパス)とゲーム	第11週 応用技術II(ポジションチェンジ)とゲーム	第5週 基本技術III(スパイク)とゲーム	第12週 バレーボールのゲームの仕組み	第6週 基本技術IV(ブロック)とゲーム	第13週 バレーボールに必要な体力	第7週 基本技V(サーブ)とゲーム	第14週 ゲームとまとめ
第1週 ガイダンス	第8週 基本技VI(レセプション)とゲーム															
第2週 バレーボールの歴史とルール	第9週 総合練習とゲームの進め方															
第3週 基本技術I(オーバーハンドパス)とゲーム	第10週 応用技術I(ローテーション)とゲーム															
第4週 基本技術II(アンダーパス)とゲーム	第11週 応用技術II(ポジションチェンジ)とゲーム															
第5週 基本技術III(スパイク)とゲーム	第12週 バレーボールのゲームの仕組み															
第6週 基本技術IV(ブロック)とゲーム	第13週 バレーボールに必要な体力															
第7週 基本技V(サーブ)とゲーム	第14週 ゲームとまとめ															
<p>●提出課題等</p> <p>特になし</p>																
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>本授業で示した学習到達点に達しているか否かを合否の基準とし、その学習習熟度によって成績評価を行う</p>																
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 随時プリントを配布する</p>																
<p>参考書・参考資料等 コーチングバレーボール(基礎編):日本バレーボール協会編(大修館)</p>																
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																

授業科目名	担当教員名		
子どもスポーツ論	山田 悟史		
2単位			
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独	
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・体育		
●授業の概要 こどもの健全な心身の発育発達のためにふさわしいスポーツとはどのようなものかを学ぶ。スポーツは単なる運動や体育とは異なる。しかしそれが一般的に理解されているとは言いがたく、スポーツの名のもとに、子どもたちの健全な発育発達を阻害するような活動がなされていることも少なくない。幼少年期の子どもにとって良いスポーツのあり方とは何か、なぜスポーツが必要なのかを、子どもを取り巻く環境や、現代の子どもに生じている心や体の問題などを題材にして学ぶ。			
●授業の到達目標 1. スポーツとは何かを理解する。 2. スポーツの有用性と危険性を理解する。 3. 子どものスポーツ指導のあり方について、客観的視点を交えて、一定の結論を出す。 4. 子どものスポーツを取り巻く環境について理解する。			
●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。			
第1週	ガイダンス、授業の進め方、評価の方法 スポーツとは何か1(スポーツの定義、歴史などについて)	第8週	スポーツとは何か2 (体育、部活動との比較。例:サッカーはスポーツか?を考える)
第2週	スポーツと身体、心、脳の発達の関係	第9週	スポーツとは何か3 (スポーツは人間性を育てるか)
第3週	現代の子どもの心と体の問題 概論	第10週	子どものスポーツ指導の問題
第4週	体の問題に対するスポーツの影響を考える 子どものスポーツの障害と予防	第11週	勝利至上主義、精神主義とスポーツ
第5週	心の問題に対するスポーツの影響を考える	第12週	子どものスポーツにおける保護者、保育者、指導者の役割を考える
第6週	子どもを取り巻く社会環境とライフスタイルの変化	第13週	子どものスポーツとコーチング
第7週	子どものライフスタイルとスポーツ 子どもの身体活動ガイドライン	第14週	子どもにとってのふさわしいスポーツの在り方についてまとめる (幼児の運動あそび・部活・アスリート)
●提出課題等 次回の授業内容および行った授業内容についてのレポートを課す。			
●成績の評価方法・基準 レポートの内容および読みやすさを中心とし、グループワークなどでの発言内容や参加意欲などを含め評価する。			
●テキストまたは参考書・参考資料等 テキスト なし			
参考書・ 参考資料等	「いま、子どもの心とからだからだが危ない」前橋明著(大学教育出版社) 「子どものからだからだが危ない!」中村和彦著(日本標準) 「スポーツリテラシー」早稲田大学スポーツナレッジ研究会(創文企画) 「運動部活動の理論と実践」友添秀則著(大修館書店)		
●履修条件 なし			

授業科目名		担当教員名	
英語 I		後藤 隆浩	
2単位			
教員の免許状取得のための「必修科目」		担当形態	単独
科目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等		・外国語コミュニケーション	
<p>●授業の概要</p> <p>国際化、情報化、グローバル化等が進行する社会の中でますます高まる英語の必要性に対応する発信型の英語運用能力の養成を目指す。さらに、学習者が各種英語検定試験に対応できるように基礎力を培う。具体的には、基本例文により英文法の基礎事項を確認する。さらに、様々な演習問題や理解度確認演習に取り組むことにより、日常的に使われる自然な実用的英語表現を習得する。以上の言語活動により、特に英語運用能力の総合的な基礎力を培う。</p>			
<p>●授業の到達目標</p> <p>「聴き、読み、話し、書く」の四技能をバランスよく組み合わせた演習を通し、高校までに学んだ語句、文、語法、文法事項を確認し、その習熟を図る。さらに、基礎力を土台に四技能の応用力を養成する。</p>			
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>			
第1週	ガイダンス	第8週	不定詞・動名詞(1)(動物はなぜ遊ぶ)
第2週	動詞の時制(船の上の学校)	第9週	不定詞・動名詞(2)(いここからのメール)
第3週	文の種類(1)(子どもと睡眠)	第10週	分詞(洗濯について)
第4週	文の種類(2)(5円硬貨のデザイン)	第11週	関係詞(1)(エジプトの教育)
第5週	完了(ボランティア募集)	第12週	関係詞(2)(ジョン万次郎)
第6週	助動詞(アメリカで人気の人形)	第13週	比較(ある少年の夢)
第7週	受動態(ジーンズの歴史)	第14週	さまざまな文型(過保護な親)
		第15週	定期試験
<p>●提出課題等</p> <p>授業時に適宜、指示をする。</p>			
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>授業時の活動、定期試験等の結果を総合的に評価する。</p>			
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 「トランスファー英語総合問題演習コースA 4th edition」(桐原書店)</p>			
<p>参考書・参考資料等 授業時に適宜、指示をする。</p>			
<p>●履修条件</p> <p>特に条件はないが、第1回の授業に出席して、授業方針及び内容を十分に理解したうえで受講することが望まれる。</p>			

授業科目名	担当教員名	
情報処理基礎 I	徐 広孝	
2単位		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等	・情報機器の操作	
<p>●授業の概要</p> <p>本授業では、実際に機器を操作しながら、データから有益な情報を読み取るための情報表現の方法とそれを用いた分析方法について学ぶ。データの収集、データの整理、データの加工、グラフ表現の基礎、各種グラフの特徴についてを学んだのち、スポーツに関するデータなどを使って、データ分析やデータ管理を実践的に学んでいく。分析した結果をわかりやすくプレゼンテーションするためのデータ表現方法についても学ぶ。演習は、コンピュータ演習室で実際に機器を操作しながら進めていく。</p>		
<p>●授業の到達目標</p> <p>本授業では、生活の身近なスポーツに関するデータやこどもの動向に関するデータを実践的な利用を視野に入れて、データ分析やデータ管理の様々な用途に合うグラフを描けるようになることを目的とする。また、プレゼンテーション資料等で相手の興味を引く美しいグラフが描けるようになることも目的とする。</p>		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>		
第 1週 授業ガイダンス、大学ICT環境の説明(1):教務システムの利用方法	第 8週	人に見せることを前提にしたグラフによるデータ表現(1) 棒グラフによる大きさの比較
第 2週 大学ICT環境の説明(2):大学E-Mailの利用方法、LMSの利用方法	第 9週	人に見せることを前提にしたグラフによるデータ表現(2) 棒グラフによる割合の比較
第 3週 情報検索、データ収集	第10週	人に見せることを前提にしたグラフによるデータ表現(3) 折れ線グラフによる変化や推移の表現
第 4週 Officeソフトの概要、表計算の基本	第11週	人に見せることを前提にしたグラフによるデータ表現(4) 円グラフによる割合の表現
第 5週 教員が指定したデータに基づくグラフの作成と編集(1) グラフの作成と修飾	第12週	グラフによるデータ分析(1) レーダーチャート、散布図と近似曲線、バブルチャート、ポジショニングマップ
第 6週 教員が指定したデータに基づくグラフの作成と編集(2) グラフ要素の編集	第13週	グラフによるデータ分析(2) ヒストグラム、ピラミッドグラフ、箱ひげ図、ガントチャート
第 7週 教員が指定したデータに基づくグラフの作成と編集(3) 元データの編集	第14週	グラフによるデータ分析(3) Zチャート、パレート図とABC分析、株価チャート、ウォーターフォール図
<p>●提出課題等</p> <p>毎回、その日の授業内容の理解度を確保するための課題を出す。</p>		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>毎回提出する課題の合計点で成績評価を行う。</p>		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 『できるExcelグラフ 魅せる&伝わる資料作成に役立つ本 2016/2013/2010対応』きたみあきこ&できるシリーズ編集部 著、インプレスジャパン、2016年。</p>		
参考書・	なし	
参考資料等		
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>		

授業科目名	担当教員名																	
教育原理	角替 弘規																	
2単位																		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独																
科目	教育の基礎的理解に関する科目																	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想																	
<p>●授業の概要</p> <p>「教育(学習)」という営みを歴史的、文化的な視点から捉え、学校、家庭や地域社会における教育の機能及び相互の関連を学び、教育の本質と目標及び教育の現代的な意義を理解する。教育の歴史に関しては、近代日本の学校の制度や教育課程・内容の歴史を中心に、地域・社会・家庭・学校における教育の変遷について基礎的な知識を習得する。そこから教育に関する現代的な課題を理解する。さらに、教育の歴史のなかで現れてきた様々な教育の理念や教育思想について概観すると共にそれらを社会状況や制度、実践と関連して理解し、教育という営みを構造的に把握する。</p>																		
<p>●授業の到達目標</p> <p>教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。</p>																		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>第1週 「教育」とはいかなる営みか</td> <td>第8週 教育思想の系譜(2)近世から近代における教育思想</td> </tr> <tr> <td>第2週 教育を成り立たせる要素(1)子どもと家庭</td> <td>第9週 教育思想の系譜(3)児童中心主義</td> </tr> <tr> <td>第3週 教育を成り立たせる要素(2)学校・教員と地域社会</td> <td>第10週 家族と教育(1)家族の伝統的機能とその変容</td> </tr> <tr> <td>第4週 学校とはいかなる場所か—近代学校の成立過程—</td> <td>第11週 家族と教育(2)近代家族と学校教育</td> </tr> <tr> <td>第5週 近代国家の成立と近代学校教育</td> <td>第12週 家族と教育(3)人口減少社会における家族と教育</td> </tr> <tr> <td>第6週 学校教育制度と教育法制</td> <td>第13週 生涯学習社会における教育</td> </tr> <tr> <td>第7週 教育思想の系譜(1)古代から近世における教育思想</td> <td>第14週 まとめ 教育と社会のこれからを展望する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第15週 定期試験</td> </tr> </tbody> </table>			第1週 「教育」とはいかなる営みか	第8週 教育思想の系譜(2)近世から近代における教育思想	第2週 教育を成り立たせる要素(1)子どもと家庭	第9週 教育思想の系譜(3)児童中心主義	第3週 教育を成り立たせる要素(2)学校・教員と地域社会	第10週 家族と教育(1)家族の伝統的機能とその変容	第4週 学校とはいかなる場所か—近代学校の成立過程—	第11週 家族と教育(2)近代家族と学校教育	第5週 近代国家の成立と近代学校教育	第12週 家族と教育(3)人口減少社会における家族と教育	第6週 学校教育制度と教育法制	第13週 生涯学習社会における教育	第7週 教育思想の系譜(1)古代から近世における教育思想	第14週 まとめ 教育と社会のこれからを展望する		第15週 定期試験
第1週 「教育」とはいかなる営みか	第8週 教育思想の系譜(2)近世から近代における教育思想																	
第2週 教育を成り立たせる要素(1)子どもと家庭	第9週 教育思想の系譜(3)児童中心主義																	
第3週 教育を成り立たせる要素(2)学校・教員と地域社会	第10週 家族と教育(1)家族の伝統的機能とその変容																	
第4週 学校とはいかなる場所か—近代学校の成立過程—	第11週 家族と教育(2)近代家族と学校教育																	
第5週 近代国家の成立と近代学校教育	第12週 家族と教育(3)人口減少社会における家族と教育																	
第6週 学校教育制度と教育法制	第13週 生涯学習社会における教育																	
第7週 教育思想の系譜(1)古代から近世における教育思想	第14週 まとめ 教育と社会のこれからを展望する																	
	第15週 定期試験																	
<p>●提出課題等</p> <p>必要に応じて適宜指示する。</p>																		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>課題提出及び筆記試験にて評価し、60点以上で合格とする。</p>																		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 藤田由美子・谷田川ルミ編著『ダイバーシティ時代の教育の原理—多様性と新たなつながりの地平へ—』学文社</p>																		
<p>参考書・参考資料等 必要に応じて適宜指示する。</p>																		
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																		

授業科目名	担当教員名																																	
教職入門(教師論)	角替 弘規																																	
2単位																																		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独																																
科目	教育の基礎的理解に関する科目																																	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)																																	
<p>●授業の概要</p> <p>本授業では現在の教師に求められる役割を理解し、教師となる意欲を高めると共に、教師として成長するために必要な知識、並びに意識や姿勢を獲得する。まず、現代日本の学校教育の意義と、そこにおける教師の役割と教職の社会的意義について理解する。次に、これまで社会が教師にどのような役割を求め、それがどのように変化してきたのか(教師像の変遷)を概観し、そこから現在の教師に求められる役割と、役割の重要性について理解する。さらに、具体的な事例を通して現在の教師の職務内容の全体像を理解し、学校に期待される多様な課題に対応するための同僚間連携や地域社会との連携などの必要性を学ぶ。</p>																																		
<p>●授業の到達目標</p> <p>現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解する。</p>																																		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1"> <tr> <td>第1週</td> <td>教職とは</td> <td>第8週</td> <td>授業とカリキュラム(1)学習指導要領</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>公教育の意義と目的</td> <td>第9週</td> <td>授業とカリキュラム(2)カリキュラム・マネジメント</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>教職の法的位置づけと教師の職務(1)憲法と教育基本法</td> <td>第10週</td> <td>授業とカリキュラム(3)指導計画と授業計画</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>教職の法的位置づけと教師の職務(2)教育法規と教職</td> <td>第11週</td> <td>チーム学校(1)様々な教育課題と学校内の連携</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>学校組織の中の教師</td> <td>第12週</td> <td>チーム学校(2)保護者・地域社会と学校の連携</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>教職に求められる倫理</td> <td>第13週</td> <td>人口減少社会における学校と教職</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>児童生徒と教師—現代社会における子ども</td> <td>第14週</td> <td>まとめ あるべき教職像の模索</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>第15週</td> <td>定期試験</td> </tr> </table>			第1週	教職とは	第8週	授業とカリキュラム(1)学習指導要領	第2週	公教育の意義と目的	第9週	授業とカリキュラム(2)カリキュラム・マネジメント	第3週	教職の法的位置づけと教師の職務(1)憲法と教育基本法	第10週	授業とカリキュラム(3)指導計画と授業計画	第4週	教職の法的位置づけと教師の職務(2)教育法規と教職	第11週	チーム学校(1)様々な教育課題と学校内の連携	第5週	学校組織の中の教師	第12週	チーム学校(2)保護者・地域社会と学校の連携	第6週	教職に求められる倫理	第13週	人口減少社会における学校と教職	第7週	児童生徒と教師—現代社会における子ども	第14週	まとめ あるべき教職像の模索			第15週	定期試験
第1週	教職とは	第8週	授業とカリキュラム(1)学習指導要領																															
第2週	公教育の意義と目的	第9週	授業とカリキュラム(2)カリキュラム・マネジメント																															
第3週	教職の法的位置づけと教師の職務(1)憲法と教育基本法	第10週	授業とカリキュラム(3)指導計画と授業計画																															
第4週	教職の法的位置づけと教師の職務(2)教育法規と教職	第11週	チーム学校(1)様々な教育課題と学校内の連携																															
第5週	学校組織の中の教師	第12週	チーム学校(2)保護者・地域社会と学校の連携																															
第6週	教職に求められる倫理	第13週	人口減少社会における学校と教職																															
第7週	児童生徒と教師—現代社会における子ども	第14週	まとめ あるべき教職像の模索																															
		第15週	定期試験																															
<p>●提出課題等</p> <p>必要に応じて適宜指示する。</p>																																		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>課題提出及び筆記試験にて評価し、60点以上で合格とする。</p>																																		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 馬居政幸・角替弘規編著『人口減少時代の家族・学校・地域・社会～生涯にわたる学びと教えの新たな可能性を求めて～』NSK出版</p>																																		
<p>参考書・ 無藤隆・馬居政幸・角替弘規『学習指導要領改訂のキーワード』明治図書 参考資料等</p>																																		
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																																		

授業科目名	担当教員名	
教育社会学	松永 由弥子	
2単位		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	
<p>●授業の概要</p> <p>人間と社会の関係について、社会の中で人間形成の役割を担う教育の在り方を学ぶ。その際、教育によって、社会が人間個人を規定すると同時に、人間が社会を作っているという両方の視点からの関係性を把握することに努める。具体的には、まずは現代社会の状況を理解し、その変化が生徒や学校教育にもたらす影響と課題、それに対応する教育政策の動向を把握する。その上で、これからの学校の在り方について、地域との連携・協働の観点及び学校安全と危機管理の観点から学んでいく。</p>		
<p>●授業の到達目標</p> <p>社会の状況を理解し、その変化が子ども・若者、学校、教育にもたらす影響とそこから生じる課題を理解する。同時に、その課題に対応するための、「学校と地域の協働連携」の視点からの教育改革、学校安全の考え方の導入など、現代の教育政策の動向を理解する。また、現代公教育制度の原理について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識の習得と課題の理解を目指す。</p>		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>		
第1週	オリエンテーション(授業の概要・到達目標の説明)	第8週 公教育の原理と理念
第2週	社会における教育の役割～人間と社会の関係から～	第9週 教育基本法の理解(1)日本国憲法第26条と教基法第1章(教育の目的及び理念)
第3週	近年の社会状況と子ども・若者	第10週 教育基本法の理解(2)第2章(教育の実施に関する基本)
第4週	近年の社会状況と学校(1)「命を守る」学校安全への対応	第11週 教育基本法の理解(3)第3章(教育行政)
第5週	近年の社会状況と学校(2)地域との関わり方	第12週 学校教育法の理解～第5章中学校、第6章高等学校を中心に～
第6週	近年の社会状況と教育(1)家庭教育と子ども・若者	第13週 子ども・若者に関わる法規・行政の理解
第7週	近年の社会状況と教育(2)社会教育と子ども・若者	第14週 これからの社会を作る教育のあり方～地域との連携・協働、学校安全への対応をヒントに～
		第15週 定期試験
<p>●提出課題等</p> <p>子ども・若者を話題に取り上げたニュース記事を調べ、月に1回提出すること。</p>		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>試験の結果や課題への取り組み状況に基づき、成績評価を行う。</p>		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 教育制度研究会編『要説教育制度[新訂第三版]』学術図書出版社</p>		
参考書・参考資料等	授業中に適宜指示する。	
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>		

授業科目名		担当教員名															
教育心理学		漁田 俊子															
2単位																	
教員の免許状取得のための「必修科目」		担当形態	単独														
科目		教育の基礎的理解に関する科目															
施行規則に定める科目区分又は事項等		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程															
<p>●授業の概要</p> <p>教育心理学には、学習・発達・適応・評価という4本の柱がある。この授業では、その4つの柱について、①児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な知識を身に付け、②各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解し、③児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的基礎理論を学び、④学習評価について考察していく。そのために必要な、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的心理学理論を紹介する。</p>																	
<p>●授業の到達目標</p> <p>幼児・児童・生徒の心理的発達や心理的特徴を理解し、対応できることを到達目標とする。また、障害を持つ児童・生徒への対応ができることも到達目標とする。教育心理学の基本的な概念や理論と研究方法に関する講義を通じて、教育現場における指導実践に役立つ視点を習得させることを目的とする。具体的には、学習と記憶のメカニズム、動機づけ、学習方略とメタ認知、知識の獲得、道徳性の発達、発達障害等について取り上げる。これら教育心理学の知見を学ぶことにより、教育現場において生じる様々な問題について、その問題の背景を正しく把握する力と有効な対処法を見つけて出すことをねらいとする。</p>																	
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1週 ・教育心理学の研究手法と課題(発達・学習・適応の評価)</td> <td style="width: 50%;">第8週 ・障害のある児童・生徒の学習の過程</td> </tr> <tr> <td>第2週 ・遺伝と環境が発達に及ぼす影響、発達段階</td> <td>第9週 ・適応と不適応</td> </tr> <tr> <td>第3週 ・知能と性格</td> <td>第10週 ・道徳性の発達と行動</td> </tr> <tr> <td>第4週 ・知能の測定方法</td> <td>第11週 ・エピソード記憶と知識</td> </tr> <tr> <td>第5週 ・知能と学習・発達</td> <td>第12週 ・動機づけ</td> </tr> <tr> <td>第6週 ・障害への対応(心身の障害) ・発達障害への対応</td> <td>第13週 ・教育活動の測定と評価</td> </tr> <tr> <td>第7週 ・学習と教授方法</td> <td>第14週 ・総括と到達点の再確認</td> </tr> </table>				第1週 ・教育心理学の研究手法と課題(発達・学習・適応の評価)	第8週 ・障害のある児童・生徒の学習の過程	第2週 ・遺伝と環境が発達に及ぼす影響、発達段階	第9週 ・適応と不適応	第3週 ・知能と性格	第10週 ・道徳性の発達と行動	第4週 ・知能の測定方法	第11週 ・エピソード記憶と知識	第5週 ・知能と学習・発達	第12週 ・動機づけ	第6週 ・障害への対応(心身の障害) ・発達障害への対応	第13週 ・教育活動の測定と評価	第7週 ・学習と教授方法	第14週 ・総括と到達点の再確認
第1週 ・教育心理学の研究手法と課題(発達・学習・適応の評価)	第8週 ・障害のある児童・生徒の学習の過程																
第2週 ・遺伝と環境が発達に及ぼす影響、発達段階	第9週 ・適応と不適応																
第3週 ・知能と性格	第10週 ・道徳性の発達と行動																
第4週 ・知能の測定方法	第11週 ・エピソード記憶と知識																
第5週 ・知能と学習・発達	第12週 ・動機づけ																
第6週 ・障害への対応(心身の障害) ・発達障害への対応	第13週 ・教育活動の測定と評価																
第7週 ・学習と教授方法	第14週 ・総括と到達点の再確認																
<p>●提出課題等</p> <p>なし</p>																	
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>・レポート(課題レポート3回)及び小テスト80%、提出物10%、授業態度10%。</p>																	
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト なし</p>																	
<p>参考書・参考資料等 ・適宜、参考書リスト・資料等を配布する。</p>																	
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																	

授業科目名	担当教員名																	
特別支援教育総論	鳥海 順子																	
2単位																		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独																
科 目	教育の基礎的理解に関する科目																	
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解																	
<p>●授業の概要</p> <p>インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の制度や理念を歴史的視点から理解し、障害の概念、教育の場、自立活動を含めた教育課程・教育内容についての基礎的な知識を学習する。また、聴覚障害、視覚障害、知的障害、肢体不自由、病虚弱、発達障害などの障害のある生徒の心身の発達、特性と適切な支援方法について理解し、個別的教育支援計画や個別の指導計画の意義と作成方法を知る。さらに、特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭との連携による支援体制の重要性について学習する。また、日本語を母語としない外国籍や貧困家庭、被虐待などその他支援の必要な生徒についても理解し、対応の必要性や方法を知る。</p>																		
<p>●授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障がいの概念や特性、特別支援教育の理念について説明できる。 2. 障がいのある児童・生徒の特性を学び、学習上または生活上の困難さを理解することができる。 3. 個別の教育的ニーズに対する知識や支援方法についての基礎的事項が説明できる。 4. 特別支援教育コーディネーターを中心とした学校・関係機関・家庭との連携による支援体制の重要性について知る。 5. 母国語や貧困等の問題のある児童・生徒の学習・生活上の困難さと対応方法について理解する。 																		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">第 1週 障がいの概念について</td> <td style="width: 33%;">第 8週 言語障がい・情緒障がいの理解と支援の基本</td> </tr> <tr> <td>第 2週 特別支援教育の制度や理念について</td> <td>第 9週 特別支援学校の教育課程と自立活動</td> </tr> <tr> <td>第 3週 聴覚障がい・視覚障がいの理解と支援の基本</td> <td>第10週 小学校、中学校、高等学校における特別支援教育</td> </tr> <tr> <td>第 4週 知的障がいの理解と支援の基本</td> <td>第11週 個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用</td> </tr> <tr> <td>第 5週 肢体不自由・病虚弱の理解と支援の基本</td> <td>第12週 チーム学校における支援と関係機関の連携</td> </tr> <tr> <td>第 6週 発達障がいの理解と支援の基本</td> <td>第13週 母国語や貧困等の問題のある児童・生徒の学習・生活上の困難と対応</td> </tr> <tr> <td>第 7週 重複障がいの理解と支援の基本</td> <td>第14週 総括(まとめ)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第15週 定期試験</td> </tr> </table>			第 1週 障がいの概念について	第 8週 言語障がい・情緒障がいの理解と支援の基本	第 2週 特別支援教育の制度や理念について	第 9週 特別支援学校の教育課程と自立活動	第 3週 聴覚障がい・視覚障がいの理解と支援の基本	第10週 小学校、中学校、高等学校における特別支援教育	第 4週 知的障がいの理解と支援の基本	第11週 個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用	第 5週 肢体不自由・病虚弱の理解と支援の基本	第12週 チーム学校における支援と関係機関の連携	第 6週 発達障がいの理解と支援の基本	第13週 母国語や貧困等の問題のある児童・生徒の学習・生活上の困難と対応	第 7週 重複障がいの理解と支援の基本	第14週 総括(まとめ)		第15週 定期試験
第 1週 障がいの概念について	第 8週 言語障がい・情緒障がいの理解と支援の基本																	
第 2週 特別支援教育の制度や理念について	第 9週 特別支援学校の教育課程と自立活動																	
第 3週 聴覚障がい・視覚障がいの理解と支援の基本	第10週 小学校、中学校、高等学校における特別支援教育																	
第 4週 知的障がいの理解と支援の基本	第11週 個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用																	
第 5週 肢体不自由・病虚弱の理解と支援の基本	第12週 チーム学校における支援と関係機関の連携																	
第 6週 発達障がいの理解と支援の基本	第13週 母国語や貧困等の問題のある児童・生徒の学習・生活上の困難と対応																	
第 7週 重複障がいの理解と支援の基本	第14週 総括(まとめ)																	
	第15週 定期試験																	
<p>●提出課題等</p> <p>授業内で提示するミニレポート、障がいの理解を深めるための課題レポートの提出。 グループワーク・課題の発表。</p>																		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>提出物(授業内でのミニレポート、その他課題レポート等) 30% 発表等授業への参加状況 20% 定期試験の結果 50% 以上から総合的に評価する。</p>																		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 小畑文也・鳥海順子・義永睦子編著「Q&Aで学ぶ障害児支援のベーシック<2訂版>」コレール社 ISBN:978-4-87637-720-6</p>																		
<p>参考書 「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」文部科学省 参考資料等 「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省</p>																		
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																		

授業科目名		担当教員名	
教育課程と方法		白鳥 絢也	
2単位			
教員の免許状取得のための「必修科目」		担当形態	単独
科目		教育の基礎的理解に関する科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	
●授業の概要 本授業では日本の学校教育の教育課程を学習指導要領の変遷を中心に概観し、歴史的、社会的な視点から現在の学習指導要領の内容とねらいを理解する。また、学校での教育課程(カリキュラム)編成に関する代表的な考え方を提示し、現在の学習指導要領のねらいを踏まえたカリキュラム編成のあり方を具体的な事例をもとに解説する。また、学年や教科の枠を超えて教育課程をとらえ、地域や児童生徒の実態をふまえて学校全体としてカリキュラムを編成・実施・評価・改善する「カリキュラム・マネジメント」の考え方や重要性を理解する。			
●授業の到達目標 ・学校教育における教育課程の役割と意義を理解する。 ・教育課程編成の基本的な原理と、学校や地域の実態に即したカリキュラム編成の方法を理解する。 ・学校全体として教育課程を編成・実施・評価・改善する「カリキュラム・マネジメント」の意義を理解する。			
●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。			
第1週	ガイダンス:授業の概要の説明、教育課程の意義・カリキュラムという用語の意味の解説。	第8週	教育課程の編成方法(2):教育内容の配列方法(シーケンス)とその背後の考え方
第2週	近代日本の教育課程:明治期から戦前期までの日本の学校教育の教育課程の変遷について扱う。	第9週	総合的な学習(探究)の時間の意義と教科横断型の教育課程編成
第3週	学習指導要領の変遷(1):日本の学校教育で学び、教えることを示し、育成すべき人間像が明示された「学習指導要領」について扱う。終戦後から1950年代の学習指導要領の特徴について社会的背景とともに学ぶ。	第10週	主体的・対話的で深い学びと教育課程編成
第4週	学習指導要領の変遷(2):1960年代から1980年代の学習指導要領を検討する。社会の変化とともに学習指導要領がどのように変化し、学校教育がどう変わったのか。当時の教科書や新聞、テレビの報道などを取りあげながら考える。	第11週	カリキュラム・マネジメントの意味と重要性
第5週	学習指導要領の変遷(3):1990年代から2010年代の学習指導要領を検討し、社会の変化とともに学習指導要領がどのように変化し、学校教育がどう変わったのかを、当時の教科書や新聞、テレビの報道などを取りあげながら考える。	第12週	教育課程の現代的課題(1):ヒドウン・カリキュラム
第6週	新学習指導要領で掲げられた学力観・学校像と教育課程:第2週から第5週までの学習を踏まえて、2018年に公示された新学習指導要領の教育課程の特徴を考える。	第13週	教育課程の現代的課題(2):市民性教育・メディアリテラシー教育他
第7週	教育課程の編成方法(1):さまざまな「スコープ」と教科編成のバリエーション	第14週	授業内容の総括と学習到達点の再確認
		第15週	定期試験
●提出課題等 毎回の授業の最後に、授業で学んだことや授業を通して得られた疑問点などをまとめたリアクションペーパー(授業内レポート)を提出してもらおう。リアクションペーパーに書かれた疑問や質問は、可能な限り次回の授業の冒頭で補足をする。			
●成績の評価方法・基準 試験及びレポートの結果に基づき、成績評価を行う。評価の割合は、リアクションペーパー(授業内レポート):40%、期末試験:60%。			
●テキストまたは参考書・参考資料等 テキスト 金井香里他著『子どもと教師のためのカリキュラム論』成文堂、2019年			
参考書・参考資料等	・小学校学習指導要領(平成29年改訂 文部科学省) ・中学校学習指導要領(平成29年改訂 文部科学省) ・高等学校学習指導要領(平成30年改訂 文部科学省) ・小学校学習指導要領解説(平成29年7月 文部科学省) ・中学校学習指導要領解説(平成29年7月 文部科学省) ・高等学校学習指導要領解説(平成30年7月 文部科学省)		
●履修条件 なし			

授業科目名		担当教員名	
道徳教育		中村 美智太郎	
2単位			
教員の免許状取得のための「必修科目」(中)		担当形態	単独
科目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等		道徳の理論及び指導法	
<p>●授業の概要</p> <p>「道徳」についての理論的な理解を最初のステップとして、日本における道徳教育の歴史と学習指導要領の変遷を把握し、多様な視点から道徳指導についての考えを深めていく。そして、実際に教育現場で「道徳教育」を実践する際の基本的な方法論を獲得し、また道徳教育実践についての教材を開発することを通じて、よりよい道徳指導の可能性について考察を深める。毎回PowerPointによるスライドを使用する。授業内で質問をする時間も設け、自由な質問・討議を促す。授業は講義形式と模擬授業を含む発表形式の両方を取り、どちらも学生の主体的な参加により進めていく。</p>			
<p>●授業の到達目標</p> <p>学生が道徳指導に関わる基本的な知識を身につけ、それらをヒントとしながら、道徳指導の可能性について深く考えることができること、また、道徳指導の実践及び実践についてのアイデアを多様に展開できることが到達目標である。</p> <p>学生が、単に知識の提示に終わるのではなく、自分自身が道徳指導について持つ課題に引きつけて多様な道徳指導上の視点から考えて実践できる可能性を見出す姿勢を身に付ける。</p>			
<p>●授業計画 本学の授業は1コマ100分、半期は14週で実施</p>			
第1週	オリエンテーション:「道徳教育」「道徳指導」とはなにか、道徳と倫理	第8週	道徳授業の検討(2):道徳性の発達理論
第2週	道徳の根拠は感情か理性か?:感情説と理性説の検討	第9週	中間課題(2):道徳授業の教材開発とその解説・検討
第3週	道徳教育の現代的な諸課題:いじめ問題・情報モラルの問題	第10週	道徳授業の教材開発の実践:検討編 実践編:模擬授業
第4週	日本の道徳教育の歴史:明治期から現代まで	第11週	道徳授業の検討(3):「価値明確化」授業
第5週	学習指導要領の変遷:小学校・中学校・高等学校	第12週	道徳授業の検討(4):「モラルスキルトレーニング」授業
第6週	道徳授業の検討(1):「価値の伝達」授業	第13週	「道徳の社会化」と道徳教育の在り方
第7週	中間課題(1):読み物資料を使用した指導案作成とその解説・検討 実践編:模擬授業	第14週	まとめ:今後の道徳指導における問題と展望
		第15週	定期試験
<p>●提出課題等</p> <p>レポートを2回、試験を1回実施する。</p>			
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>本授業で示した学習到達点に達しているか否かを可否の基準とし、試験及びレポートの結果に基づき、その学習熟度によって成績評価を行う。</p>			
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 教員から配付されるプリント資料</p>			
参考書・ 参考資料 等	文部科学省『中学校 学習指導要領』(平成29年3月) 文部科学省『小学校 学習指導要領解説 総則編(平成29年6月)』2017年。 文部科学省『小学校 学習指導要領解説 特別の教科道徳編(平成29年6月)』2017年。	文部科学省『中学校 学習指導要領解説 総則編(平成29年6月)』2017年。 文部科学省『中学校 学習指導要領解説 特別の教科道徳編(平成29年6月)』2017年。	
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>			

授業科目名		担当教員名																																	
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		中西 健一郎・佐藤 知条																																	
2単位																																			
教員の免許状取得のための「必修科目」		担当形態	オムニバス																																
科目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目																																	
施行規則に定める科目区分又は事項等		総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法																																	
<p>●授業の概要</p> <p>特別活動及び総合的な学習の時間の意義・目標・内容について整理し、その指導の在り方について講義する。特別活動では、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」等の視点を持ち、活動の特質を踏まえた指導が可能となることを目指す。総合的な学習の時間においては、各教科を超えた学習内容に基づく探求的な学びを達成するための単元計画を作成し、指導内容を具体的に理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(中西 健一郎／7回) 特別活動の意義・目的・内容及び指導法</p> <p>(佐藤 知条／7回) 総合的な学習の時間の意義・目的・内容及び指導法</p>																																			
<p>●授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動及び総合的な学習の時間の教育的な意義や役割について理解する。 ・特別活動及び総合的な学習の時間の内容を実践事例及び受講生の体験を通して具体的に理解する。 ・特別活動及び総合的な学習の時間の重要性を確認し指導法及び教師の役割について理解する。 																																			
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">第1週</td> <td style="width: 50%;">特別活動の概要及び関係機関との連携について (担当:中西)</td> <td style="width: 25%;">第8週</td> <td style="width: 20%;">総合的な学習の時間を実現している具体的な事例や手法に関する理解、それらに関する留意点、関連する学習評価について(担当:佐藤)</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>特別活動の目標及び各教科との関連性について (担当:中西)</td> <td>第9週</td> <td>総合的な学習の時間における探究的な学習及び評価方法とその留意点(担当:佐藤)</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>学習指導要領と特別活動における学級と家庭の連携について (担当:中西)</td> <td>第10週</td> <td>総合的な学習の時間の指導計画について (担当:佐藤)</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>学級活動・ホームルーム活動の理解と展開 (担当:中西)</td> <td>第11週</td> <td>総合的な学習の時間の実践事例について (担当:佐藤)</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>生徒会活動の理解と展開 (担当:中西)</td> <td>第12週</td> <td>総合的な学習の時間の指導案作成について (担当:佐藤)</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>学校行事の理解と展開 (担当:中西)</td> <td>第13週</td> <td>特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連 (担当:佐藤)</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>特別活動の評価 (担当:中西)</td> <td>第14週</td> <td>試験</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>第15週</td> <td>試験の振り返り、解説、総括等 (担当:佐藤)</td> </tr> </table>				第1週	特別活動の概要及び関係機関との連携について (担当:中西)	第8週	総合的な学習の時間を実現している具体的な事例や手法に関する理解、それらに関する留意点、関連する学習評価について(担当:佐藤)	第2週	特別活動の目標及び各教科との関連性について (担当:中西)	第9週	総合的な学習の時間における探究的な学習及び評価方法とその留意点(担当:佐藤)	第3週	学習指導要領と特別活動における学級と家庭の連携について (担当:中西)	第10週	総合的な学習の時間の指導計画について (担当:佐藤)	第4週	学級活動・ホームルーム活動の理解と展開 (担当:中西)	第11週	総合的な学習の時間の実践事例について (担当:佐藤)	第5週	生徒会活動の理解と展開 (担当:中西)	第12週	総合的な学習の時間の指導案作成について (担当:佐藤)	第6週	学校行事の理解と展開 (担当:中西)	第13週	特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連 (担当:佐藤)	第7週	特別活動の評価 (担当:中西)	第14週	試験			第15週	試験の振り返り、解説、総括等 (担当:佐藤)
第1週	特別活動の概要及び関係機関との連携について (担当:中西)	第8週	総合的な学習の時間を実現している具体的な事例や手法に関する理解、それらに関する留意点、関連する学習評価について(担当:佐藤)																																
第2週	特別活動の目標及び各教科との関連性について (担当:中西)	第9週	総合的な学習の時間における探究的な学習及び評価方法とその留意点(担当:佐藤)																																
第3週	学習指導要領と特別活動における学級と家庭の連携について (担当:中西)	第10週	総合的な学習の時間の指導計画について (担当:佐藤)																																
第4週	学級活動・ホームルーム活動の理解と展開 (担当:中西)	第11週	総合的な学習の時間の実践事例について (担当:佐藤)																																
第5週	生徒会活動の理解と展開 (担当:中西)	第12週	総合的な学習の時間の指導案作成について (担当:佐藤)																																
第6週	学校行事の理解と展開 (担当:中西)	第13週	特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連 (担当:佐藤)																																
第7週	特別活動の評価 (担当:中西)	第14週	試験																																
		第15週	試験の振り返り、解説、総括等 (担当:佐藤)																																
<p>●提出課題等</p> <p>なし</p>																																			
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>試験及びレポートの結果に基づき、成績評価を行う。</p>																																			
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト なし</p> <p>参考書・参考資料等 授業内において配布した資料を参考として学習を進める。 「中学校学習指導要領」(平成29年3月 文部科学省) 「高等学校学習指導要領」(平成30年3月 文部科学省) 「中学校学習指導要領解説(総合的な学習の時間)(特別活動)」(平成29年7月 文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説(総合的な探求の時間編)(特別活動編)」(平成30年7月 文部科学省)</p>																																			
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																																			

授業科目名	担当教員名		
教育方法論	佐藤 知条		
2単位			
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独	
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>●授業の概要</p> <p>本授業では、現在の児童生徒に育成すべき資質・能力について歴史的社会的な文脈から学び、その為に必要な教育方法について理解する。また、具体的な授業場面では教育内容や児童生徒の実情に応じて適切な指導の技術を用いる必要があることを理解し、授業の目標、用いる教材・教具、授業の展開、評価の観点等の要素を盛り込んだ指導案を自ら作成することで、授業づくりに必要な教育技術に関する基礎的な知識・技術を習得する。</p>			
<p>●授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの学校教育において児童生徒に育成すべき資質・能力を把握し、そのために必要な教育の方法について理解する。 ・教育内容や子どもの実態に応じて適切な教育の技術があることを理解し、自ら実践するための指導案を作成することができる。 ・児童生徒の多様な学びのニーズに応じた教材研究を行うことができる。 			
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>			
第1週	ガイダンス:「教育方法」の意味の解説と授業の概要	第8週	学習指導の基本原則(2) 「学習者の学び」を成立させるための学習指導の基礎的な考え方を学ぶ。
第2週	教育方法の歴史と展望(1):西洋における教育思想の展開と教育方法(1) 近代以前の教育思想と教育方法の展開を概観し、それが現在の教育方法にどのように関連しているのかを理解する。	第9週	教材と教具
第3週	教育方法の歴史と展望(2):西洋における教育思想の展開と教育方法(2) 近代学校誕生以後の教育思想と教育方法の展開を概観し、現在の教育方法との関連を理解する。	第10週	授業における教師のはたらきかけ(1) 発問や板書など、授業場面における教師のはたらきかけを具体的に学ぶ。
第4週	教育方法の歴史と展望(3)日本における教育改革と教育方法の歴史(1) 近代学校教育の成立から戦前期における教育方法の展開を概観し、現在への影響及び課題を理解する。	第11週	授業における教師のはたらきかけ(2) 発問や板書など、授業場面における教師のはたらきかけを具体的に学ぶ。
第5週	教育方法の歴史と展望(4)日本における教育改革と教育方法の歴史(2) 戦後学校教育における教育方法の展開を概観し、現在への影響及び課題を理解する。	第12週	授業の評価と省察
第6週	教育目標論・教育内容論	第13週	教科外学習のデザイン
第7週	学習指導の基本原則(1) 「学習者の学び」を成立させるための学習指導の基礎的な考え方を学ぶ。	第14週	授業内容の総括と学習到達点の再確認
		第15週	定期試験
<p>●提出課題等</p> <p>毎回の授業の最後に、授業で学んだことや授業を通して得られた疑問点などをまとめたリアクションペーパー(授業内レポート)を提出してもらおう。 リアクションペーパーに書かれた疑問や質問は、可能な限り次の授業の冒頭で補足をする。 また、授業内容を踏まえた単元の指導案の作成課題を課す。</p>			
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>試験及びレポートの結果に基づき、成績評価を行う。評価の割合は、リアクションペーパー(授業内レポート):30%、提出課題の指導案:40%、期末試験:30%。</p>			
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法 改訂版』有斐閣、2019年。</p> <p>参考書・参考資料等 授業内に適宜紹介する。 「中学校学習指導要領」(平成29年3月 文部科学省) 「高等学校学習指導要領」(平成30年3月 文部科学省) 「中学校学習指導要領解説」(平成29年7月 文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説」(平成30年7月 文部科学省)</p>			
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>			

授業科目名	担当教員名	
情報通信技術の活用	佐藤 知条	
1単位		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	
<p>●授業の概要</p> <p>学習指導において情報通信技術(ICT)を活用する必要性を理解するとともに、授業の中でICTを効果的に活用し指導方法の改善を図りながら児童生徒の学力向上につなげていくための基礎的理論と方法を学ぶ。児童生徒による情報端末の利用を通じた情報活用能力の育成や、教師による効果的なICT活用やの方法を具体的に理解し、教師の仕事の中で多様な形でICTを活用できるようになるための資質・能力を育成する。</p>		
<p>●授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の学校教育における情報通信技術の活用の意義と、教師としてそれらを活用するために必要な理論を理解する。 情報通信技術を効果的に活用した学習指導および校務のあり方を理解する。 児童生徒の情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を身につける。 情報通信技術を活用した教材を作成するための基礎的な理論と方法を身につける。 		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期7週で実施。</p>		
第1週 ガイダンス 現在社会における情報通信技術の活用と学校教育における取り組みと環境整備の現状	第8週	定期試験
第2週 視聴覚教育、ICTを活用した教育の理論	第9週	
第3週 授業におけるICT活用(1)教師による利用	第10週	
第4週 授業におけるICT活用(1)児童生徒による利用	第11週	
第5週 情報モラルの育成	第12週	
第6週 子どもの多様なニーズとICTの活用	第13週	
第7週 学校における多様なICT活用(教材作成・評価・情報の共有・校務の効率化)	第14週	
	第15週	
<p>●提出課題等</p> <p>毎回の授業の最後に、授業で学んだことや授業を通して得られた疑問点などをまとめたリアクションペーパー(授業内レポート)を提出してもらおう。リアクションペーパーに書かれた疑問や質問は、可能な限り次の授業の冒頭で補足をする。また、授業内容を踏まえた単元の指導案の作成課題を課す。</p>		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>試験及びレポートの結果に基づき、成績評価を行う。評価の割合は、リアクションペーパー(授業内レポート):30%、提出課題の指導案:40%、期末試験:30%。</p>		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法 改訂版』有斐閣、2019年。</p> <p>参考書・参考資料等 授業内に適宜紹介する。 「中学校学習指導要領」(平成29年3月 文部科学省) 「高等学校学習指導要領」(平成30年3月 文部科学省) 「中学校学習指導要領解説」(平成29年7月 文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説」(平成30年7月 文部科学省)</p>		
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>		

授業科目名	担当教員名		
生徒指導	中西 健一郎・久米 昭洋		
2単位			
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	オムニバス	
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
<p>●授業の概要</p> <p>生徒指導は、教育活動全体を通じて行われる学習活動と並ぶ重要な教育活動である。本講義では、組織的な生徒指導の実践に必要な知識・技能及び資質を獲得することを目標とする。教科における生徒指導、総合的な学習の時間における生徒指導、特別活動における生徒指導、生徒指導体制の組織化、生徒指導の意義・目的・内容及び指導法、教育課程における生徒指導の位置づけ、集団指導・個別指導の方法原理、学校運営と生徒指導などについて学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(中西 健一郎／7回) 生徒指導の目的について理解し、その方法や留意点について学習する。また、いじめや体罰など実際の生徒指導の現状についても理解を深める。</p> <p>(久米 昭洋／7回) 生徒指導の現況及び歴史について学習する。問題行動の全体像を把握し、実際の生徒指導や進路指導に関する実践についても理解する。</p>			
<p>●授業の到達目標</p> <p>生徒を取り巻く社会環境や生徒の実態及び近年の問題行動の特徴等について学習し、生徒理解の重要性や方法、これからの生徒指導のあり方や指導者としての教師の役割について理解する。</p>			
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>			
第1週	ガイダンス(生徒指導と学校教育) (担当:久米)	第8週	問題行動への対応方法 (担当:久米)
第2週	生徒指導の意義と役割 (担当:久米)	第9週	いじめの背景と実態 (担当:中西)
第3週	生徒指導の目的(適応と発達) (担当:中西)	第10週	いじめの対策と予防 (担当:中西)
第4週	生徒指導の歴史(戦後の問題行動等の推移と背景) (担当:久米)	第11週	不登校について (担当:久米)
第5週	生徒理解の方法・留意点 (担当:中西)	第12週	懲戒と体罰 (担当:中西)
第6週	生徒指導の実際(ホームルーム活動・教科指導の中での指導) (担当:中西)	第13週	教育相談や進路指導のあり方 (担当:久米)
第7週	問題行動の分類・特徴 (担当:久米)	第14週	試験
		第15週	試験の振り返り、解説、総括等 (担当:中西)
<p>●提出課題等</p> <p>なし</p>			
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>試験及びレポートの結果に基づき、成績評価を行う。</p>			
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト なし</p>			
<p>参考書・参考資料 授業内において配布した資料を参考として学習を進める。 「生徒指導提要」(平成22年3月 文部科学省) 等</p>			
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>			

授業科目名	担当教員名	
教育相談	佐瀬 竜一	
2単位		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	
<p>●授業の概要</p> <p>本授業は、①教育相談に関わる心理学の理論・概念、②不応や問題行動のメカニズムとその対処法、③カウンセリングを中心とした個別・組織的な教育相談の進め方、の3点について実践的理解が得られるように授業を行う。授業の中で心身を落ち着かせるワークを活用し、計画に沿った授業を行う。また、講義形式に加えて協同学習形式の体験型授業を多く取り入れて、コミュニケーションスキルの向上も目指す。これらを通して中学校・高等学校での教育相談に関わる教育実践力を高めることを目的とする。</p>		
<p>●授業の到達目標</p> <p>教育相談の概要についての分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉えることができる。</p> <p>支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を理解して分かりやすく説明することができることに加えて、カウンセリングの知識を実際に活用することができる。</p>		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p>		
第1週 ガイダンス、教育相談とは？	第8週	カウンセリングの基礎訓練(3);質問する
第2週 教育相談の基礎知識(1):発達	第9週	カウンセリングの基礎訓練(4);伝える、まとめる
第3週 教育相談の基礎知識(2):アセスメント、個人差	第10週	問題行動の理解と対処(1):不登校
第4週 教育相談の基礎知識(3):ストレス	第11週	問題行動の理解と対処(2):いじめ
第5週 不応とは:なぜ人は悩み苦しむのか？	第12週	問題行動の理解と対処(3):虐待
第6週 カウンセリングの基礎訓練(1);関係をつくる	第13週	教育相談の実際(1):発達障がい理解と対応
第7週 カウンセリングの基礎訓練(2);聴く	第14週	教育相談の実際(2):連携と支援計画
<p>●提出課題等</p> <p>なし</p>		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>期末レポート(60%)、リアクションペーパー(20%)、期末マインドマップ(20%)</p>		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 特定のテキストは配布しない。適宜資料を紙媒体もしくは電子媒体で提供する。</p>		
参考書・ 参考資料 等	授業中に紹介する。	
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>		

授業科目名	担当教員名																																	
進路指導	松永 由弥子・野崎 英二																																	
2単位																																		
教員の免許状取得のための「必修科目」	担当形態	オムニバス																																
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目																																	
施行規則に定める科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法																																	
<p>●授業の概要</p> <p>進路指導は、生徒が自ら将来を見据えてそれぞれの能力を伸ばせるよう、組織的・継続的な指導を行う過程を指し、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。その中で、変化の激しい今日の社会にあっては、生徒に、能力向上を目指した生涯学習の必要性やよりよい社会の維持を支える人格形成の重要性を伝えることも重要である。このような社会的・職業的な自立を促す進路指導を行うために必要な考え方、ガイダンス・カウンセリング機能を含んだ指導方法の理論的・体験的習得を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(松永 由弥子／9回)</p> <p>教育課程における進路指導の意義を十分理解できるように、生涯にわたる長期的展望に立った人間形成という観点からの進路指導・キャリア教育の意義、社会情勢や青少年の現状という進路指導の背景、進路指導・キャリア教育における体験活動・自己評価に関する意義ならびにポートフォリオの活用とガイダンスとしての指導方法の意義などを学習する。</p> <p>(野崎 英二／5回)</p> <p>学校教育における進路指導のあり方の全体を理解できるように、教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ、学校の教育活動全体を通じた進路指導・キャリア教育の在り方、組織的な指導体制づくり及び、インターンシップやキャリアカウンセリングの現状と意義などを学習する。</p>																																		
<p>●授業の到達目標</p> <p>進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ及び進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。指導上では、全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方(ガイダンスとしての指導)及び個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方(カウンセリングとしての指導)を理解している。</p>																																		
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション(授業の概要・到達目標の説明) (担当:松永)</td> <td>第8週</td> <td>教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ (担当:野崎)</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>進路指導・キャリア教育の意義(1)～長期的展望に立った人間形成～ (担当:松永)</td> <td>第9週</td> <td>学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 (担当:野崎)</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>進路指導・キャリア教育の意義(2)～生涯を通じたキャリア形成の視点から～ (担当:松永)</td> <td>第10週</td> <td>組織的な指導体制づくり (担当:野崎)</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>社会情勢と青少年の進路・キャリア (担当:松永)</td> <td>第11週</td> <td>職業に関する体験活動(インターンシップ)の意義 (担当:野崎)</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>青少年の現状と進路・キャリア (担当:松永)</td> <td>第12週</td> <td>ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義と留意点 (担当:松永)</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>進路指導・キャリア教育における体験活動の意義 (担当:松永)</td> <td>第13週</td> <td>生涯を通じたキャリア形成と自己評価～ポートフォリオの活用を中心に～ (担当:松永)</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>キャリア形成における自己評価の意義 (担当:松永)</td> <td>第14週</td> <td>キャリアカウンセリングの基礎的な考え方とその方法 (担当:野崎)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>第15週</td> <td>定期試験</td> </tr> </tbody> </table>			第1週	オリエンテーション(授業の概要・到達目標の説明) (担当:松永)	第8週	教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ (担当:野崎)	第2週	進路指導・キャリア教育の意義(1)～長期的展望に立った人間形成～ (担当:松永)	第9週	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 (担当:野崎)	第3週	進路指導・キャリア教育の意義(2)～生涯を通じたキャリア形成の視点から～ (担当:松永)	第10週	組織的な指導体制づくり (担当:野崎)	第4週	社会情勢と青少年の進路・キャリア (担当:松永)	第11週	職業に関する体験活動(インターンシップ)の意義 (担当:野崎)	第5週	青少年の現状と進路・キャリア (担当:松永)	第12週	ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義と留意点 (担当:松永)	第6週	進路指導・キャリア教育における体験活動の意義 (担当:松永)	第13週	生涯を通じたキャリア形成と自己評価～ポートフォリオの活用を中心に～ (担当:松永)	第7週	キャリア形成における自己評価の意義 (担当:松永)	第14週	キャリアカウンセリングの基礎的な考え方とその方法 (担当:野崎)			第15週	定期試験
第1週	オリエンテーション(授業の概要・到達目標の説明) (担当:松永)	第8週	教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ (担当:野崎)																															
第2週	進路指導・キャリア教育の意義(1)～長期的展望に立った人間形成～ (担当:松永)	第9週	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 (担当:野崎)																															
第3週	進路指導・キャリア教育の意義(2)～生涯を通じたキャリア形成の視点から～ (担当:松永)	第10週	組織的な指導体制づくり (担当:野崎)																															
第4週	社会情勢と青少年の進路・キャリア (担当:松永)	第11週	職業に関する体験活動(インターンシップ)の意義 (担当:野崎)																															
第5週	青少年の現状と進路・キャリア (担当:松永)	第12週	ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義と留意点 (担当:松永)																															
第6週	進路指導・キャリア教育における体験活動の意義 (担当:松永)	第13週	生涯を通じたキャリア形成と自己評価～ポートフォリオの活用を中心に～ (担当:松永)																															
第7週	キャリア形成における自己評価の意義 (担当:松永)	第14週	キャリアカウンセリングの基礎的な考え方とその方法 (担当:野崎)																															
		第15週	定期試験																															
<p>●提出課題等</p> <p>学生自身の自己評価シート、ポートフォリオ。</p>																																		
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>試験の結果や課題への取り組み状況に基づき、成績評価を行う。</p>																																		
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト 授業中に適宜指示する。</p>																																		
<p>参考書・ 参考資料 等</p> <p>・村上龍『新13歳のハローワーク』幻冬舎 ・秦明雄『13歳から君を幸せにする15の教え』東京図書出版</p>																																		
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																																		

授業科目名		担当教員名																													
教職実践演習(中・高)		高橋 和子・松永 由弥子・中西 健一郎・徐 広孝																													
科目	教育実践に関する科目	2単位																													
施行規則に定める科目区分又は事項等		教職実践演習																													
教員の免許状取得のための「必修科目」		担当形態	クラス分け・単独																												
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握	「○」																												
学校現場の意見聴取 「×」		受講者数	20名(4クラスで実施)																												
<p>●教員の連携・協力体制</p> <p>1クラス15～20名の計4クラスで授業を行う。4人の教員は下記のシラバスに沿って授業を進めると同時に、各担当クラスの学生の履修カルテを参照しながら、個別指導を徹底するように進める。各授業ごとに担当クラスの授業内容と状況を所定のファイルに記載し、教員間での授業の方針を確認しながら情報の共有と指導の共有、協力を図る。特に授業に際して、使用する資料の共有や教材教員の共有、授業の進め方、評価などについても4人の教員が合意しながら進める。</p>																															
<p>●授業の概要</p> <p>教職に関連する科目及び教育実習等を経て獲得した体験的かつ実践的な知見との関連について省察し、自らの教育者としての特性について分析する。また、学校教育現場における今日的な課題に対する分析や、GIGAスクール構想の実現に伴う教員のICT活用スキル、およびそれらの実際の対応方法などについてディスカッション形式を通して学びを深めていくことを試みる。本授業により、これまでの教師としての資質獲得を目指した学習を総括し、教育者として必要な知識、技能、心構えを向上させ、実際に教師となった後の自己研鑽についても理解を深める。</p>																															
<p>●授業の到達目標</p> <p>中学高等学校保健体育科教員免許の必修科目として、教職科目の総仕上げの科目として、教育に対する価値観や教育実践能力の形成の意識付けを行う。教師に必要とされるコミュニケーション能力や教師として必要とされる教養などを含めた教師の在り方、実践的な指導力、学級(ホームルーム)形成としての学級(ホームルーム)経営、生活指導、生徒理解と教育相談、保護者・地域との連携、ICT活用スキルなどの諸点から、自己を評価し、教育職員としての資質、能力の形成状況を確認しながら、実践指導力の向上に務める。</p>																															
<p>●授業計画 本学の授業は100分、半期14週で実施。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>第1週</td> <td>教職実践演習(中高)の意義と目的</td> <td>第8週</td> <td>学級形成－保護者・地域・校内組織との連携</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>教育職員の在り方－教育の意義と学校教育</td> <td>第9週</td> <td>実践的な指導力－教材研究と教材解釈(フィールドワークの実際)</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>教育職員の在り方－学校教育の中での教師の役割(現職教員や教員経験者の講演)</td> <td>第10週</td> <td>実践的な指導力－授業づくりとその評価(事例研究の実際)</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>学級形成－学級・ホームルーム経営の意義と学級・ホームルームづくり(特別活動の実際)</td> <td>第11週</td> <td>実践的な指導力－指導方法・指導技術と評価の観点(ディスカッション、ブレーンストーミング、ロールプレイング、ICTを活用した教育活動の実際)</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>学級形成－集団の把握と学校生活</td> <td>第12週</td> <td>実践的な指導力－中学校高等学校保健体育科授業の実際(模擬授業およびICTを活用した授業の実際)</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>学級形成－集団の把握と生活指導</td> <td>第13週</td> <td>学校現場における教育課題の探求</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>学級形成－生徒理解と教育相談(スクールカウンセリングの実際)</td> <td>第14週</td> <td>振り返り－教育職員としての資質、能力の自己評価</td> </tr> </tbody> </table>				第1週	教職実践演習(中高)の意義と目的	第8週	学級形成－保護者・地域・校内組織との連携	第2週	教育職員の在り方－教育の意義と学校教育	第9週	実践的な指導力－教材研究と教材解釈(フィールドワークの実際)	第3週	教育職員の在り方－学校教育の中での教師の役割(現職教員や教員経験者の講演)	第10週	実践的な指導力－授業づくりとその評価(事例研究の実際)	第4週	学級形成－学級・ホームルーム経営の意義と学級・ホームルームづくり(特別活動の実際)	第11週	実践的な指導力－指導方法・指導技術と評価の観点(ディスカッション、ブレーンストーミング、ロールプレイング、ICTを活用した教育活動の実際)	第5週	学級形成－集団の把握と学校生活	第12週	実践的な指導力－中学校高等学校保健体育科授業の実際(模擬授業およびICTを活用した授業の実際)	第6週	学級形成－集団の把握と生活指導	第13週	学校現場における教育課題の探求	第7週	学級形成－生徒理解と教育相談(スクールカウンセリングの実際)	第14週	振り返り－教育職員としての資質、能力の自己評価
第1週	教職実践演習(中高)の意義と目的	第8週	学級形成－保護者・地域・校内組織との連携																												
第2週	教育職員の在り方－教育の意義と学校教育	第9週	実践的な指導力－教材研究と教材解釈(フィールドワークの実際)																												
第3週	教育職員の在り方－学校教育の中での教師の役割(現職教員や教員経験者の講演)	第10週	実践的な指導力－授業づくりとその評価(事例研究の実際)																												
第4週	学級形成－学級・ホームルーム経営の意義と学級・ホームルームづくり(特別活動の実際)	第11週	実践的な指導力－指導方法・指導技術と評価の観点(ディスカッション、ブレーンストーミング、ロールプレイング、ICTを活用した教育活動の実際)																												
第5週	学級形成－集団の把握と学校生活	第12週	実践的な指導力－中学校高等学校保健体育科授業の実際(模擬授業およびICTを活用した授業の実際)																												
第6週	学級形成－集団の把握と生活指導	第13週	学校現場における教育課題の探求																												
第7週	学級形成－生徒理解と教育相談(スクールカウンセリングの実際)	第14週	振り返り－教育職員としての資質、能力の自己評価																												
<p>●提出課題等</p> <p>毎回の授業後にリアクションペーパーを記入し提出する。</p>																															
<p>●成績の評価方法・基準</p> <p>講義における受講態度、毎回提出するリアクションペーパー、教職カルテなど、これまで蓄積されたレポートなどを総合的に評価する。</p>																															
<p>●テキストまたは参考書・参考資料等</p> <p>テキスト ・中学校学習指導要領(文部科学省) ・高等学校学習指導要領(文部科学省) ・中学校学習指導要領解説保健体育編(文部科学省) ・高等学校学習指導要領解説保健体育編(文部科学省) ・中学校保健体育検定教科書 ・高等学校保健体育検定教科書</p> <p>参考書・参考資料等 授業中に資料を配付する。</p>																															
<p>●履修条件</p> <p>なし</p>																															